

起 止 録 安政二年

翻刻・校註 竹松 幸香
(前田土佐守家資料館 学芸員)

凡 例

- 1、本書は、加賀公事場附与力中村豫卿の日記「起止録」(中村夏栄氏所蔵)のうち安政二年分を翻刻したものである。
- 2、史料は原文に従ったが、読みやすくするため、原文の趣旨をそこなわない範囲において、つぎのような原則で表記を改めた。
 - ①字体は当用漢字を原則とし、変体仮名は仮名に改めた。ただし、而・茂・者・江・与などはそのままにした。また、旧仮名や合字の「ㇿ」(より)「ㇾ」(しめ)などもそのまま表記した。
 - ②虫損・破損などにより判読できない文字は□□□、で示した。
 - ③表敬の欠字は1字あけ、平出・台頭もそのまま表記した。
 - ④適宜、読点・並列点を付した。
- 3、本文中、職業・身分や身体などに関する卑称・賤称が使用されることがあるが、本書では原史料の通り掲載した。それは歴史的事実を正確に認識するためであり、差別を容認するものではない。

参 考

時 刻											
午前						午後					
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
時											
九	八	七	六	五	四	九	八	七	六	五	四
ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ
真	夜	暁	明	朝	昼	真	昼	夕	暮	宵	夜
夜						昼					
(子)	(丑)	(寅)	(卯)	(辰)	(巳)	(午)	(未)	(申)	(酉)	(戌)	(亥)

若林喜三郎『近世古文書探訪のしおり』北国出版、1975、76pより

起止録 安政二年

元日 六ツ過ニ是安屋助三郎銀子持来起、儀式了、圀橋¹方ニ而咄、双六打等、昼々暫稻つミ²、大小³手入いたし、年賀帳調⁴等、夜歌かるた等、間ニ名札百枚調、起止録仕立上ケ等、四ツ時頃ニ寝、
 二日 五ツ過ニ起、昼前小児守等并旧臘之起止録調等、昼後大小手入、圀橋方ニ而歌かるた蔀取等、夕年賀人応答等、夜喜助、嘉六来、将棋并双六打等、五ツ半頃ニ皆去、寝、
 三日 五ツ時ニ起、大小手入、髪結来、終日年賀人応答等、間、昼後野尻屋徳兵衛来、碁式番半打去、土田⁵年賀ニ来、碁半番打去、晩ニのとき喜八郎圀橋方江来、相手ニ成夜去、夜長蔵并家来共等歌かるた、双六等、四ツ半前ニ寝、
 四日 七ツ時頃ニ起、湯あミ、大小手入、起止録調等、六ツ時前々ニ御丸江出、矢天井之御間ニ而年頭御礼⁶申上、昼頃済、直ニ年賀四拾八軒勤、晩ニ帰、夜大小手入、圀橋方ニ而歌かるた取等、五ツ半頃ニ寝、
 五日 昼九ツ時前ニ起、磯野⁷来、暫咄等去、佐野屋江遣紙面調等、大小手入、夕七ツ半頃々渡部民部誘連而坂井宇右衛門⁸江行、中惣⁹行あり、跡々同所伊太夫¹⁰も来同咄、小謡¹¹等、夜九ツ時頃ニ帰、寝、
 六日 五ツ過ニ起、年賀人応答等、髪結来、大小手入等、昼九ツ時前々年賀四拾三軒勤、夕七ツ半頃ニ帰、年賀人応答等、又大小手入等、夜圀橋連而丹羽椎溪¹²江行咄、山東兄弟¹³并稼亭行あり、双六打并小謡等数十番謡、夜九ツ時過ニ帰、寝、
 人日 五ツ過ニ起、終日年賀人等応答等、間ニ年賀ヶ所しらべ并起止録調等、夕大小手入、晩々圀橋方江行、椎溪并稼亭¹⁴兄弟来咄、夜九ツ時頃ニ皆去、寝、
 八日 五ツ半頃ニ起、大小手入、四ツ頃々年賀拾六軒勤内本光寺¹⁵江参詣、昼後九ツ半頃ニ帰、年賀帳しらべ、又大小手入等、八ツ過々青木江行、同役磯野、脇坂之外并永井¹⁶、坂宇¹⁷皆行碁打、歌かるた并双六打等、夜九ツ過ニ帰モ寝、
 九日 四ツ時過ニ起、井佐¹⁸来次第巻藁¹⁹射初いたし等、昼々大工吉右衛門来同咄、間ニ大小手入等、歌かるた取等、夕大工去、七ツ半々謡初、高砂知左衛門、熊野佐太右衛門、附祝言猩々、無本謡、夜六ツ過ニ井佐去、尋而西坂成一郎²⁰方江行咄、好文園²¹も同咄、夜八ツ半頃ニ帰、大小手入、寝、
 十日 四ツ過ニ起、土谷九内²²来咄等、昼後九ツ半頃々連而青木²³江行、土谷与碁三番打、間ニ江口清八郎同所江年賀ニ来暫同咄、夕七ツ半過ニ帰、直ニ丹羽椎溪江行咄、謡常陸、鉄輪式番謡、夜九ツ過ニ帰、大小手入、寝、

- 1 圀橋〓中村小太郎の号。中村小太郎は豫卿の従兄弟。妻の兄でもある。以下登場人物一覽参照。
- 2 稻つミ〓稻積。眠ること。古く正月に用いた忌詞。
- 3 大小〓打刀と脇差。
- 4 年賀帳調〓年賀状を書くこと。
- 5 土田〓土田源四郎。公事場附与力。以下登場人物一覽参照。
- 6 年頭御礼〓藩主在國中、藩士たちは登城し、二ノ丸御殿で藩主に年頭の御礼（拝礼）を行った。元日より重臣たちから順に二月朔日まで数回行われた。お目見以下の豫卿は、藩主の御前である大広間に入ることなく、大広間に隣接する矢天井の間で年頭の拝礼を行った。
- 7 磯野〓磯野助之進。公事場附与力。以下登場人物一覽参照。
- 8 坂井宇右衛門〓公事場附与力。以下登場人物一覽参照。
- 9 中惣〓中西惣右衛門。公事場附与力。以下登場人物一覽参照。
- 10 伊太夫〓坂井伊太夫。坂井宇右衛門の兄。
- 11 小謡〓謡曲の中から独吟に適するごく短い一節を取り出したもの。
- 12 丹羽椎溪〓丹羽弟次郎。中村豫卿の親友。以下登場人物一覽参照。
- 13 山東兄弟〓山東余所次郎と山東甚兵衛のことを指す。以下登場人物一覽参照。
- 14 稼亭〓大島善之介の号。中村豫卿の親友。以下登場人物一覽参照。
- 15 本光寺〓高道町（卯辰山のふもと）にある法華宗寺院。中村豫卿家の菩提寺。
- 16 永井〓永井平右衛門。以下登場人物一覽参照。
- 17 坂宇〓坂井宇右衛門。以下登場人物一覽参照。
- 18 井佐〓井口佐太右衛門。豫卿の母方従兄弟。以下登場人物一覽参照。
- 19 巻藁〓藁を巻いて束ねたもの。弓の練習的に使用する。
- 20 西坂成一郎〓豫卿の師西坂成庵の嫡子。以下登場人物一覽参照。
- 21 好文園〓西坂辰之助。以下登場人物一覽参照。
- 22 土谷九内〓公事場附与力。前田土佐守家家臣の一人。以下登場人物一覽参照。
- 23 青木〓青木敬次郎。公事場附与力。以下登場人物一覽参照。

十一日 四ツ時頃二起、年賀帳しらべ等、小児守等、昼々百姓兩人吉志物ニ来并薪付も来、酒為吞等、昼後八ツ半前二去、尋而年賀六軒勤、晩二帰、夜歌かるた取等、大小手入、九ツ時頃二寝、
十二日 四ツ時前二起、山東余所次郎来暫咄、昼前二去、歌かるた取等、起止録調、本郷屋親与兵衛来咄去、大小手入、八ツ半頃山東江行、謡照君甚兵衛・余所次郎 求塚知左衛門・甚兵衛、善知鳥余所次郎・知左衛門、附祝言、跡二咄等、夜五ツ半頃二帰、寝、
十三日 六ツ過二起、役所²⁴江出、是日雪三尺斗降あり、雪こぎ²⁵、出牢者取次老人、昼後九ツ半頃二済帰、風呂立あり湯浴、暫眠、大小手入、八ツ半頃竹俣²⁶江年賀勤、直二木下²⁷江行、旧臘出産二付右祝小謡等、夜九ツ時頃二帰、大小手入、寝、
十四日 五ツ半頃二起、正月かざり物仕廻²⁸等、髪結来、年賀帳しらべ等、大小手入、昼後八ツ時前より古沢江行、弓術稽古始次第巻巻篇、跡二小謡等、夜五ツ頃二帰、直二大嶋稼亭江行圮橋、白溪行あり、同咄、夜九ツ時頃二帰、又大小手入モ寝、
十五日 五ツ過二起、弓術二行、式拾五本斗、四ツ半頃二帰、昼々中惣来、咄、間二土谷モ来暫咄去、八ツ過々中惣連而青木江行、正柳寺²⁹行あり、碁式番打、咄等、晩二帰、夜大小手入、年賀帳しらべ等、寝、
十六日 五ツ過二起、弓術二行、五拾本、昼前二帰、大小手入、昼後々年賀拾五軒勤、直二七ツ時々土谷江行、岡検使³⁰口書老通調、跡二謡、小鼓さし稽古三・四番、歌かるた等品々、夜八ツ時頃二帰、大小手入、寝、
十七日 五ツ前二起、学校³¹江出、是日講書初二而無之直様帰、辻安³²誘途二逢、連而役所江出、寄日、昼後済、帰二同役山十³³、磯野外何茂来、碁打、咄等、夜土田先二去、源平驚盤いたし等、四ツ時前二皆去、大小手入、寝、
十八日 六ツ半頃二起、役所江出、取次老人、口書老通、昼九ツ時過二済、直二何茂山十江見廻二行、是日同人見合、連碁打等、七ツ半過々余先二帰、直二坂井稽古始³⁴二行、木工馬³⁵老鞍、夜五ツ過二帰、大小手入、寝、
十九日 五ツ過二起、小児守等、五ツ半過々山崎稽古始³⁶二行、巻篇大野常三打木刀、直様酒・吸物祝、帰二年賀場付足軽等拾四軒勤、昼後帰、年賀ヶ所しらべ、大小手入等、八ツ過々坂井多十郎来、大小修覆方相談等、晩二去る、夜モ寝、
廿日 五ツ過二起、土田誘同所門前二而同人方馬二老勤乗、直二弓術二行、式拾五本、跡二索引等、昼帰、尋而木下江先日之挨拶一寸寄、早数³⁷江寄暫咄、直二中惣江行、寄日、七ツ時二仕廻、跡二碁打等、夜謡実盛甚兵衛、知左衛門、助之進、サシ前々土谷小鼓打、跡二さし鼓数番、九ツ時頃二帰、大小手入モ寝、
廿一日 九ツ時過二起、是日風邪難義、坂多来暫咄去、月懸頼母子開札いたし等、小児守等、夜大小手入、寝、
廿二日 四ツ半起、風邪少々快し、起止録調、昼々折焼柴之記³⁸読、八ツ時頃々林助大夫³⁹来咄、尋中惣来同咄、間二丹羽椎溪も来同咄、椎溪先二去、林晩二去、夜蕎麦振廻⁴⁰給等、五ツ半頃二中惣去、大小手入、寝、

24 役所 中村豫卿の職場である公事場。

25 雪こぎ 除雪。

26 竹俣 豫卿の茶道の師匠。以下登場人物一覧参照。

27 木下 大嶋稼亭(善之介)の弟。木下衡之の末期養子となる。以下登場人物一覧参照。

28 仕廻 「しまう」と読む。片付ける。

29 正柳寺 野田寺町の昌柳寺(日蓮宗)のことか。

30 岡検使 傍検使。局外の業務のことを指すと思われる。

31 学校 加賀藩校明倫堂のことと思われる。

32 辻安 辻安兵衛。以下登場人物一覧参照。

33 山十 山本十郎左衛門。以下登場人物一覧参照。

34 坂井稽古始 大坪流馬術師範坂井平六(本多家家臣、馬場前丁に住む)の稽古初めに参加した。豫卿は馬術を坂井平六に習っている。坂井稽古所はこの後度々登場する。

35 木工馬 木馬。乗馬の練習に使用する。

36 山崎稽古始 中条流剣術師範山崎岩丞(組外・百五十石、公事場の向いに住む)の稽古初めに参加した。剣術は山崎岩丞のところで習っていたらしい。

37 早数 早川数之助。登場人物一覧参照。

38 折焼柴之記 新井白石著『折たく柴の記』三卷三冊。家系の歴史や直参に取り立てられるまでの白石本人の略歴、自らが起草した政策の解説、當時を騒がせた事件の顛末などについて記されている。

39 林助大夫 安政元年まで公事場附与力。以下登場人物一覧参照。

40 振廻 振舞に同じ。

廿三日 昼九ツ時前二起、風邪漸快、折たく柴之記読等、昼後八ツ時前々坂井稽古所江行、又酒振舞二逢、咄等、夕七ツ時半前二帰、井佐来あり咄、謡善知鳥、サシヲ謡独吟⁴¹等式、三番、夜双六打等、九ツ時前二去、大小手入、寝、
廿四日 四ツ時頃二起、風邪大舛こゝろよし、磯野聞合セ二来、昼頃去、髪結来、間ニ辻安来咄、碁五番打、間ニ土谷来同咄等、尋而永井平右衛門来、同碁打等、晩ニ土谷去、夜四ツ時頃二辻、永井去、大小手入、圀橋方ニ而暫咄、寝、
廿五日 四ツ時過二起、風邪追々こゝろよし、豊嶋虎三郎⁴²来咄、昼前二去、大小手入、折たく柴之記読、間ニ圀橋方ニ歌かるた取等、起止録調、八ツ半頃ニ中惣来暫咄去、尋而丹羽椎溪来、山余⁴³跡々来、謡会朝長弟次郎・知左衛門・余所次郎、附祝言、跡ニ咄、独吟等、双六打等、夜九ツ時頃ニ皆去、寝、
廿六日 六ツ半二起、役所江出、取次忤人、口書忤通、夜四ツ時過二済帰、大小手入、九ツ時二寝、
廿七日 五ツ過二起、髪結来、五ツ半過々大嶋江一寸寄、役所江出、昨日口書清書為読合等、八ツ半頃ニ済帰、直ニ青木江行、武藤左門来、碁三十番打、夜四ツ半頃二帰、大小手入、寝、
廿八日 五ツ過二起、弓術二行、巻藁式拾五本、昼前二帰、折たく柴読等、昼後九ツ半頃々浅野川ごりや⁴⁴高山崩かかる所を見物いたし、直ニ坂井稽古所江行暫咄、直ニ八ツ過々土田江誘、磯野江行、同役青木之外何茂寄碁打、咄、謡等、夜九ツ時過二帰、大小手入モ寝、
廿九日 五ツ過二起、山十江寄留守、土田江行咄、碁打、跡々山十も来同咄等、昼後八ツ時前々皆連而直ニ中惣江行、余一寸宅江寄行、同所江辻、脇坂、土谷も来、蕎麦振舞二逢、碁打等、夜土田、山十先去、坂宇跡々来、同碁打等、夜九ツ時頃二帰、大小手入、寝、

二月

朔日 五ツ時頃二起、風呂立あり溜浴、髪結来、四ツ時前々孝友堂⁴⁵江行、釈菜祝奠⁴⁶講釈三綱領聴聞、是日ひもろぎ⁴⁷ちようはい、昼九ツ半過二帰、年賀ヶ所しらべ、尋而年賀勤、途ニ丹羽江一寸寄暫咄、是時地震頗大⁴⁸両度動る、年賀不勤、宅江帰、圀橋方ニ而咄等、折たく柴読等、夜大小手入、寝、
二日 六ツ半二起、役所江出、取次忤人、口書忤通、昼後八ツ半頃ニ済帰、直ニ進士⁴⁹江一寸行、直ニ孝友堂江昨日之挨拶ニ一寸寄、何茂留守、帰、晩々青木江行咄、夜六ツ過二帰、大小手入、寝、
三日 四ツ半頃二起、小児守等、折たく柴読等、昼後山十一寸来去、又小児守等、七ツ過二青木江一寸寄、山十連而蕎麦店江寄、坂井稽古所江行暫咄、晩々耳口店江行、夜五ツ前二帰、山十来、双六數十番打、九ツ時過二去、大小手入、寝、
四日 五ツ口起、弓術二行、式拾五本、先生不快、昼前二帰、山十江一寸寄暫咄帰、是日かがミ直し、折たく柴読是日口巻一冊読、八ツ半頃々小児連而丹羽江行咄等、晩ニ小児連而帰、夜圀橋方ニ而うに逢振舞、咄、大小手入、四ツ時前二寝、
五日 五ツ半前二起、入払帳しらべ等、髪結来、起止録調等、昼九ツ時過々辻江行、寄日、七ツ時頃二御用談仕廻、跡ニ碁打、咄等、夜辻治兵衛も来、同咄、謡独吟等、夜四ツ時過二帰、大小手入、寝、
六日 六ツ半二起、役所江出、取次忤人、口書直し、夕七ツ時過二済帰、直ニ青木江寄咄、晩ニ帰、夜大小手入モ寝、
七日 五ツ過二起、弓術二行、式拾五本、昼前二帰、小児守等、昼後八ツ過々丹羽改作奉行⁵⁰本役二成二付行、紙面調手伝等咄、山東兄弟も来同咄等、夜五ツ半過二帰、大小手入、寝、
八日 五ツ半過二起、弓術二行、式拾五本、昼前二帰、直ニ山十江一寸寄、碁拾八番打、夜五ツ過二帰、大小手入、寝、
九日 四ツ半頃二起、小児守等、昼後々髪結江行髪結、直ニ永井江行咄、碁数番打、多田逸次郎⁵¹来暫同

41 独吟 謡曲一曲中の特定の一部を囃子なしで、独りで謡うこと。

42 豊嶋虎三郎 豫卿の儒学学習の弟子。以下登場人物一覧参照。

43 山余 山東余所次郎。登場人物一覧参照。

44 浅野川ごりや 鮎屋。浅野川上流右岸の有名な料理屋。

45 孝友堂 豫卿が通う儒者西坂成庵の私塾。豫卿はかなりの高弟であつたらしい。

46 釈菜祝奠 釈奠。孔子を祀る典礼。二月・八月の上の丁の日に行う。

47 ひもろぎ 昨。神に供える米・餅・肉など。「昨頂拝」ということであらう。

48 地震頗大 午後二時頃、強震があり、金沢城の石垣等が破損した。『加賀藩史料』幕末篇上巻六七〇〜七三頁。

49 進士 進士出身。登場人物一覧参照。

50 改作奉行 算用場奉行(藩の経理会計をつかさどる奉行)配下の在方役人で、高支配の奉行として幕末まで続いた加賀藩特有の奉行。丹羽こと丹羽弟次郎は嘉永七年(安政元年)七月(慶応元年八月まで改作奉行を務めた。

51 多田逸次郎 登場人物一覧参照。

咄、夕七ツ半頃二帰、尋而青木江行暫咄、晩々丹羽権溪江行咄、謡よろぼし⁵²、夜討曾家式番無本二而謡、夜九ツ時頃二帰、寝、

十日 五ツ半二起、土田江寄、碁式、三番打、九ツ時前々弓術二行、式拾五本、山十江一寸寄留守、帰、是日妻有卦二入⁵³祝、不老酒呑、八ツ時過々大嶋江一寸寄留守、辻安江行、咄、碁五、六番打、巻藁式、三本射ル、跡々磯野来、又各巻藁五、六本射、七ツ時過二帰、直二寺町玉泉寺天満宮⁵⁴江参詣、野田寺町⁵⁵十一屋⁵⁶辺二かへ屋左吉罷在二付用事有之尋行、晩二帰、夜大小手入、市蔵⁵⁷与碁式番打、寝、十一日 五ツ半頃二起、弓術二行、式拾五本、昼前二帰、小児守等、昼後山十来、連而青木江行、山十与碁八番打、間二磯野も来同咄等、晩二帰、夜大小手入、大小之小道具しらべ、方付等、寝、

十二日 六ツ半二起、井佐江脇刺新出来之分一腰持行、留守帰、尋而五ツ時頃々弓術二行、式拾五本、外ニ引弓等、四ツ時過二帰、直二磯野江先日之挨拶二行、引弓いたし等、暫咄、直二村上勘陸⁵⁸江行、籠之義示談方等、昼尾張町⁵⁹乗物屋江寄帰、大小入念手入、髪結来、折たく柴読、八ツ半頃々妻妙見宮⁶⁰等江参詣、留守、巻藁式本射、井佐江紙面調遣等、夜又大小手入等、寝、

十三日 六ツ過二起、役所江出、取次老入、口書老通、七ツ半頃二済帰、直二山十江行、碁老番打、晩二帰、尋而山東甚兵衛御馬廻御使役二成祝二行、小謡等、夜九ツ時過二□□丹羽宅江寄、咄、八ツ時過二去モ寝、

十四日 五ツ半頃二起、弓術二行、式拾五本、直二道具屋千代屋江一寸寄、山十江寄、大便いたし直様帰、尾張町乗物屋江一寸寄、昼前二帰、小児守、扇屋の二階二而あけ等、八ツ半頃々山十来、碁拾老番打、夜九ツ時過二去、大小手入、寝、

十五日 五ツ過二起、道具屋千代屋来、不用之道具値段相極、□払等、四ツ時過二千代屋去、風呂立あり漏浴、長持道具入替方付等、昼頃々土谷聞合セニ来咄等、八ツ時頃二去、是日妻天徳院⁶¹江参詣、留守、御触留いたし等、暫眠、市蔵与碁老番半打、磯野来、暫咄去、起止録調等、夜大小手入、又起止録調、寝、

十六日 五ツ半過二起、髪結来、馬場⁶²二行、坂多江寄、大小修覆相談等、帰、大小手入、昼頃山十来、連而土田江行、同役何茂并永、坂井も来、碁各数番打、跡々吉村鉄平も来、同咄、碁打等、夜六ツ半頃検使被仰渡、御用使来、五ツ半頃二帰、出役用意等、又大小手入、夜九ツ半頃二磯野誘ニ来、

十七日 曉八ツ時頃二御門前西町⁶³検使宿江行、死骸見分手前糺、口書調等、曉六ツ時前二仕廻、帰、大小手入、暫眠、朝四ツ時前二起、役所江出、寄日、昼九ツ半頃二帰、直二青木江寄、咄、同所江出等、本吉⁶⁴之ものと碁六番打、晩二帰、寝、

十八日 六ツ時過二起、大小手入、六ツ半頃々役所江出、取次老入、口書老通、別ニ式通直し等、夕七ツ半頃二済帰、風邪氣ニ而休、夜大小手入、寝、

十九日 五ツ半頃二起、梅村環来、暫咄、昼前二去、尋而土谷来、検使沙汰之義咄等、昼後去、髪結来、検使留一冊写上、九ツ半々ニ又土谷来、八ツ過二去、尋而磯野来、暫咄、八ツ半過二検使被仰渡、七ツ時頃二磯野去、出役用意等、七ツ半頃二土谷誘ニ来、連而広岡町⁶⁵深美家来足輕父変死二付、検使宿同町願楽寺⁶⁶江行、暮六ツ時前二見分相済、糺等口書等調等、晩七ツ時頃二御用済、跡ニ役人挨拶二出等、

廿日 朝六ツ時過二帰、大小手入、暫眠、昼九ツ時頃二起、土田江行、寄日、跡ニ碁打、咄等、夜四ツ時過二帰、大小手入モ寝、

廿一日 四ツ半頃二起、月懸頼母子開札等、小児守等、昼後圮橋方江竹俣来咄、八ツ過々豊嶋虎三郎来、

52 謡よろぼしⅡ弱法師。謡曲の一つ。

53 有卦二入るⅡ有卦とは陰陽道で、その人の生年の干支により七年間吉事が続く年まわり。その年まわりがはじまること。

54 玉泉寺天満宮Ⅱ二代加賀藩主前田利長の正室永（玉泉院）の牌所。泉野菅原神社。

55 野田寺町Ⅱ金沢の地名。城下の南端。寺院が林立する。

56 十一屋Ⅱ金沢の地名。藩主の墳墓がある野田山に通う道にあたる。野田寺町の延長にある。

57 市蔵Ⅱ豫卿の家来の一か。

58 村上勘陸Ⅱ山東余所次郎の養父。山東余所次郎は村上家の養子となり、村上謙と名乗る。登場人物一覧参照。

59 尾張町Ⅱ金沢城北西に位置する北國街道沿いの町。藩政期は経済の中心地であった。俗に藩祖前田利家が尾張から連れて来た商人たちを住まわせたことからこの名がついたといわれる。

60 妙見宮Ⅱ金屋町の日蓮宗長久寺の境内妙見堂のことか。妙見堂は卯辰妙見と呼ばれた。

61 天徳院Ⅱ三代加賀藩主前田利常の室珠の菩提寺。

62 馬場Ⅱ関助馬場と称する藩士の調馬場のこと。浅野川敷にあった。

63 御門前西町Ⅱ金沢城不開門前の町。現在の南町裏通りあたり。

64 本吉Ⅱ現在の能美市美川。

65 広岡町Ⅱ現在の金沢駅西口周辺。城下の西端。

66 願楽寺Ⅱ広岡村にある浄土真宗の寺。前田土佐守家下屋敷に隣接する。

碁口番打去、間ニ丹羽椎溪来咄、跡々大嶋稼亭来、被盜物改方相談等、七ツ時過ニ皆去、尋而青木江行、行步願書付調手伝等、七ツ半過々中惣江行、右改方齋藤左次馬江相談いたし貰等咄、夜九ツ時頃ニ大嶋江寄、右改書付調手伝等、帰、大小手入モ寝、

廿二日 五ツ半過二起、弓術二行、留守、直ニ馬場江行、責馬⁶⁷見物、坂井稽古所江行、大小修覆相談方等、逢馳走、昼後帰、脇坂清太郎来、尋而辻安来、同咄、碁打等、髪結来、八ツ半頃々皆連而青木江行、咄、又碁打等、夕七ツ半頃々直ニ丹羽椎溪江行、咄、連而觀音院久保市等桜花見物二行、夜六ツ時頃ニ椎溪連而宅江帰、咄、蕎麦給等、夜九ツ時頃ニ椎溪去、大小手入、寝、

廿三日 五ツ半二起、弓術二行、式拾五本斗、昼前二帰、椎溪来暫咄、昼頃去、起止録調等、昼後九ツ半過々辻、土田追々誘ニ来咄、八ツ半頃々連而向山廻り遊行、帰ニ本光寺墓所江参詣、夕七ツ半過ニ皆連而永井江寄、碁打、咄等、夜四ツ時前二帰、大小手入、寝、

廿四日 五ツ半二起、弓術二行、式拾五本、昼前二坂井稽古所江寄、木工馬壹鞍、目貫相談等、昼前二帰、起止録調、大小手入、昼九ツ時頃々辻誘、土田、山十も跡々来、連而脇坂江行、同役青木之外何も寄、岡検使口書等三通調、跡ニ逢馳走、小謡等、同所ニおいて暫眠、夜九ツ時頃二帰、大小手入、寝、

廿五日 四ツ時頃二起、髪結来、同日家内山遊二行⁶⁸、留守中眠り、間ニ脇坂来暫咄去、晩々田井天満宮⁶⁹江参詣、夜六ツ時頃二帰、大小手入、寝、

廿六日 六ツ半頃二起、役所江出、口書式通直し等、九ツ半過ニ済、直ニ是日竹沢内⁷⁰ニおいて御大小将壹組六具⁷¹着用調練有之、右見物被 仰付、場内一統右見物二出、夕七ツ時過二帰、圀橋方二而咄等、夜大小手入、寝、

廿七日 五ツ半二起、役所江出、昨日口書清書為読合等、昼後八ツ時頃ニ済帰、直ニ早数江一寸寄、直ニ中惣江行、辻、土谷も行、碁打、咄等、夜六ツ時前二帰、丹羽椎溪江一寸寄、留守帰、大小手入、寝、

廿八日 五ツ時過二起、辻誘同所江土田兄弟等同誘二行あり、亭主者検使被仰渡鶴来江出役、同所江跡々辻治兵衛親子も誘ニ来、右皆連而打木浜において調練御覽有之⁷²見物被仰付、行、是日少々風、晩二帰、酒吞、夜大小手入、寝、

廿九日 五ツ半頃二起、髪結来、尋而丹羽椎溪江行、経分三州村附帳読合也、昼後八ツ半過々一寸帰、尋而椎溪連而稼亭誘、性月寺桜見物⁷³、十一屋辺廻り居僊亭与申ごりや江行、酒吞等、晩二帰、直ニ鶴亭江皆行、又逢馳走、夜四ツ半頃二而帰、大小手入、寝、

晦日 五ツ半頃二起、弓術二行、先生留守、帰、直ニ山十江一寸寄、留守、帰、入払帳しらべ等、風呂立あり湯浴、昼前ニ青木江行、暫咄、昼帰、昼後辻安江行、咄、碁数番打、晩二帰、夜小児守等、大小手入、寝、

三月

朔日 五ツ半頃二起、弓術江行、先生留守、式拾五本、直ニ土田江寄、碁四番打、昼帰、尋而丹羽椎溪江行、先日之村附帳読合セ全仕廻、七ツ時々一寸帰、尋而又丹羽誘、田井天満宮江参詣、直ニ鶴間溪⁷⁴辺廻り材木町⁷⁵鞘師江寄、晩二帰、丹羽椎溪連而咄、略詩、夜四ツ半頃ニ去、大小手入、寝、

二日 六ツ半二起、髪結、役所江出ニ揃日、出牢者取次等、昼九ツ時前ニ済帰、直ニ学校江出、坂井稽古馬術、馬二不乗、八ツ時前二帰、直ニ辻江行、中惣、脇坂、土谷行あり、同碁打等、夜人々一げいいいたし等遊ヒ、九ツ時頃二帰、大小手入、モ寝、

三日 昼前二起、二階道具方付⁷⁶等、昼後圀橋方二而咄、稼亭も来、同咄、八ツ時過々丹羽江一寸行、留守、帰、尋而本光寺江参詣墓参、同所隠居所江行、同寺所化智鏡招二寄、圀橋、稼亭、好文園行、笛吹等、跡々椎溪も来、同咄等、晩二帰、鞍馬天狗壺番謡、無本、大小手入、寝、

四日 五ツ半二起、弓術二行、式拾五本斗、昼前二帰、小児守等、昼々簾買二方々廻り、山十江一寸寄、

67 責馬⁶⁷馬の調練。

68 山遊二行：…豫卿の住む与力町から近場とすると卯辰山に行く可能性が高い。あるいは野田山か。

69 田井天満宮⁶⁹椿原神社。毎月二十五日は菅原道真の月命日により天満宮に参詣する習慣があったらしい。

70 竹沢内⁷⁰竹沢御殿のあった場所。現在の兼六園内。

71 六具⁷¹甲冑。具足。

72 打木浜において調練御覽有之：…この日十三代加賀藩主前田斉泰が石川郡打木浜にての調練見学があった『加賀藩史料』幕末篇上巻六七八頁。それを豫卿たちも見学しにいったらしい。

73 性月寺桜見物⁷³金沢寺町の曹洞宗寺院松月寺に桜見物に行く。松月寺の桜は有名。現在も残る。

74 鶴間溪⁷⁴鶴間坂のこと。現在の金沢大学医学部保健学科裏から旭町に降りる坂。坂の上からの眺望がよく、藩政期より詩歌を好む人が訪れ、鶴舞谷とも呼ばれた。

75 材木町⁷⁵金沢の町名。浅野川馬場に近い。

76 方付⁷⁶かたづけのこと。

留守、八ツ半過二帰、又小兒守等、七ツ過二森守⁷⁷来、途中連而中惣江誘、連而早川浅之丞本組二成⁷⁸祝二行、小謡等、夜五ツ時過二帰、大小手入、寝、

五日 五ツ半二起、人來用意掃除等、昼方同役寄日、追々何も来、青木も是節行歩願中二付来、七ツ時頃二御用談濟、尋而永井、坂井も跡々来、同咄、碁等、謡独吟等、夜四ツ時頃二何も去、大小手入、寝、六日 六ツ過二起、髪結来、多田久右衛門江江戸立之日⁷⁹二付行、刻限発足後二付帰、尋而役所江出二揃日、九ツ時過二済、直二土谷九内江行、途二早川浅之丞江一寸寄、土谷江同役青木何も行、岡検使糺方迄、跡二看碁咄、謡鼓さし稽古等、夜九ツ時頃二帰、寝、

七日 昼九ツ時頃二起、丹羽椎溪江行、咄、同人方九内君小兒病死、晚二帰青木江一寸寄、暫咄、晚二帰、夜大小手入、起止録調、五ツ時頃二寝、

八日 五ツ前二起、弓術二行、式拾五本、土田江一寸寄、連而宅江帰、尋而又連而松村八郎左衛門⁸⁰明日江戸発足二付行、亭主留守中暫咄、昼後九ツ時過二帰、森守来、碁式番打、咄、八ツ時頃二去、同刻方不破彦三殿⁸¹一昨日御家老被仰蒙祝義旁式台勤帰、小兒守、八ツ半頃方坂井稽古所江行、咄、晚二帰、夜、大小手入、起止録調寝、

九日 五ツ半頃二起、髪結来、弓術二行、式拾五本、昼前二土田江寄、同所馬二乗、宮腰往還⁸²式拾丁斗行、但、余、土田方町端迄与往還之内五、六丁乗、昼土田江帰、暫咄、直二又古沢江行、厚金射ぬき稽古見物いたし等、夕七ツ時前二帰、尋而植松平左衛門来、暫咄等、七ツ半頃二去、丹羽江行、留守、青木江寄暫咄、晚二帰、夜、大小手入、寝、

十日 五ツ過二起、馬場江行暫場見物、坂井稽古所連日中二付行、木工馬老鞍、昼前二帰、直二永井江寄咄、碁数番打、跡方青木も来、同咄、七ツ過方皆連而卯辰来教寺⁸³江行、七ツ半頃二帰、前々文匣帳しらべ等、夜大小手入、寝、

十一日 五ツ過二起、弓術二行、式拾五本、昼前二山十江一寸寄帰、小兒守等、昼後土田、山十誘二来、連而岡嶋殿⁸⁴昨日寺社奉行被仰付、品川殿⁸⁵昨日公事場奉行被仰付、式台勤⁸⁶、途二同町成瀬殿亭江土田誘引二而行、露地見物いたし直二早川浅之丞江江戸発足之暇乞二行、猪俣衆太郎江右同断、土谷九内江先日之挨拶二寄、早川数之助江一寸寄、夕七ツ時前二帰、直二丹羽江寄、咄、七ツ半頃二帰、是日家内野田参詣留守、夜六ツ時過二帰ル、大小手入、前文匣帳面清書調等、晚方高野物狂老番無本謡、夜寝、十二日 五ツ半頃二起、終日昨日之帳面清書調筆并検使留写し等、晚方青木江行、辻安行あり、同咄、碁式番打、夜五ツ半頃二帰、大小手入、寝、

十三日 是日御発駕⁸⁷二付役所止、五ツ半頃二起、風呂立あり温浴、検使留写し等、昼前二坂井宇右衛門せかれ連来、暫咄、昼頃去、又検使留写し上、八ツ時頃方宅二而髪結、尋而丹羽江行、咄、夜五ツ半頃二帰、大小手入、寝、

十四日 五ツ半頃二起、弓術二行、式拾五本、昼前二山十江寄、碁三番打、昼後八ツ過二帰、大小手入、尋而脇坂江先日馳走之挨拶二行、留守、直二林助大夫江寄、咄、夜五ツ前二帰、大小手入、寝、

十五日 五ツ半頃二起、小兒守等、土谷来、暫咄去、尋而脇坂来、暫咄、昼前二去、昼方弓術二行、式拾五本斗、同稽古所方先生初八、九人連而住吉田甫宮囿之内的場江行、的五拾本内八本当ル、最初一本目当ル事、七ツ時頃二又稽古所江帰、巻藁等拾本余り、晚二帰、大小手入、夜寝、

十六日 五ツ時頃二起、弓術二行、式拾五本、四ツ過二帰、青木江行、暫咄帰、髪結来、小兒守等、起止録調、昼後土田来、咄、碁五、六番打、八ツ半頃方林助大夫来、同咄、豆腐焼セ等、晚二皆去、巻五、六本射、稼亭来咄、夜半切等各揮筆いたし、同夜九ツ半頃鈴見村⁸⁸火事二付稼亭去、尋而木下、板坂、

⁷⁷ 森守 森嶋守人。以下登場人物一覧参照。

⁷⁸ 本組二成 本組与力となる。

⁷⁹ 多田久右衛門江江戸立之日： 四月十三日に十三代加賀藩主前田斉泰が参勤交代で江戸に向うが、それに先駆けて次々と家臣たちが出発している。豫卿の周りにもこのとき江戸詰めを申し付けられたものが多くいたらしい。

⁸⁰ 松村八郎左衛門 元公事場附与力。以下登場人物一覧参照。

⁸¹ 不破彦三殿 不破為儀(四五〇〇石)。豫卿らは家老職就任の祝儀の挨拶に不破宅へ行った。

⁸² 宮腰往還 金沢城下と宮腰など近郊の湊町をつなぐ道。武蔵が辻から宮腰にむかつて延びる。現在の金石街道。

⁸³ 卯辰山来教寺 天台宗の寺院。

⁸⁴ 岡嶋殿 加賀藩土岡嶋一孝。安政二年三月十日 安政三年八月寺社奉行。

⁸⁵ 品川殿 加賀藩土品川武好(三〇〇〇石)。安政二年三月十日 文久四年二月公事場奉行。

⁸⁶ 式台勤 就任祝儀の挨拶に行く。

⁸⁷ 是日御発駕： 十三代加賀藩主前田斉泰が参勤交代で江戸にむけて出発した。この日、役所は休みであったらしい。

⁸⁸ 鈴見村 豫卿たちの住む与力町に近い。鈴見橋は浅野川にかかる。

松村、井佐江火事見廻二行、鈴見橋辺二而火事見物いたし等、晚七ツ時過二帰、大小手入、モ寝、
十七日 五ツ半二起、四ツ前々役所江出、寄日、九ツ半頃二帰、直二中惣、土谷与青木江寄、碁数番打、
晚二帰、大小手入、夜寝、

十八日 六ツ過二起、役所江出、取次老入、口書老通、夜五ツ時前二帰、大小手入、寝、
十九日 五ツ過二起、青木来咄、四ツ時前二去、同人今日々明王町岡山勝右衛門江同居、但、明日々出勤、
尋而役所江出、昨日之口書清書為読合等、八ツ時過二帰、大嶋江一寸寄、直二丹羽江行、暫咄、同所江
役所小遣呼二来、尋而一寸宅江帰、検使留持参、役所江出、焼死検使しらべ等、七ツ半頃二帰、辻、
山本宅江来、山十与碁數十番打、辻ハ夜六ツ時頃二去、山十八夜八ツ半過二去、大小手入、寝、

廿日 五ツ過二起、井佐来咄、孟子本かし遣等、間二髪結来、四ツ時頃々役所江出、口書清書為読合等、
昼後九ツ半頃二済、直二寄日山本江行、跡二碁打、咄等、晚二帰、夜大小手入、寝、

廿一日 五ツ過二起、弓術二行、式拾五本、昼前二帰、直二坂井稽古所江寄、木工馬老鞍、直二とぎ師平
四郎方江一寸寄帰、昼後小児連而永井江寄、同人も連而観音院⁸⁹江遊行、帰二右坂下新来水茶屋江寄休、
八ツ半過二帰、又小児守等、七ツ過々丹羽椎溪江行咄、夜七ツ半頃二帰、大小手入、寝、

廿二日 五ツ時二起、弓術二行、五、六本、同所々五・六人連二而住吉の場江行、百本内五拾本当ル、最
初老本目も当ル、跡五拾本之内拾式本当ル、昼後八ツ時頃二帰、尋而坂井稽古所江行、木工馬老鞍、前
田求馬之馬つな引等、七ツ前二帰、尋而坂宇江行、碁三番打、七ツ半過々中惣江行、岡検使口書直し等、
咄、夜九ツ時頃二帰、大小手入、寝、

廿三日 五ツ過二起、弓術二行、式拾五本、昼帰、椎溪被頼之本とじ等、小児守等、土谷来咄、七ツ前
二去、尋而坂井稽古所江行、咄、直二七ツ半過々山東江行、豆腐会、独吟等、夜九ツ時頃二帰、大小手
入、寝、

廿四日 五ツ過二起、髪結来、弓術二行、式拾五本、直二山十江一寸寄、昼前二帰、古沢江贈物遣等、昼
後土田誘二来、連而辻安江行、咄、跡々山十も来、皆連而青木江行、暫咄、七ツ過々山十連而脇坂江行、
岡検使口書直し等、跡二咄、夜八ツ時過二帰、モ寝、

廿五日 五ツ過二起、大小手入、弓術二行、式拾五本、直二左兵衛太連而吉田左近右衛門⁹⁰方稽古所江行、
先生出、巻藁等拾本斗、昼後帰、午睡、八ツ半過々田井天満宮江参詣、同所二而丹羽椎溪二逢、連而椎
溪江行咄、明後日遠所立用意⁹¹手伝等、夜四ツ時頃二帰、大小手入、寝、

廿六日 六ツ時過二起、役所江出、取次老入、越中屋幸左衛門、口書老通、右糺懸六拾老ヶ条、同日昼八
ツ時頃二御吟味所糺方相済、夫々口書二取懸り、又夫々糺方等、

廿七日 朝四ツ時前二口書宜相調、三十九条有之、夫々為読聞読上、昼後八ツ時前二済、八ツ時二帰、圮
橋方二而咄等、馬淵順八⁹²来暫咄、肝煎来、暫咄等去、漏浴二行、帰、稼亭来、咄、労直し是杯相手二
成、七ツ半頃二去、寝、

廿八日 五ツ時二起、髪結来、起止録調等、五ツ半過々役所江出、口書清書為読合等、七ツ過二帰、直二
丹羽留守一寸寄、暫咄、七ツ半二帰、大小手入、土田是日検使江行、引揚之節一寸寄暫咄去、晚々寝、
廿九日 五ツ過二起、小児守等、五ツ半頃々役所江出、口書清書為読合等、昼後九ツ時過二全済、辻、青
木之外皆宅江一寸来、尋而又皆連而田井天満宮江参詣、直二土谷江行、間二坂宇江一寸寄、跡々辻も来、
同咄、碁打等、竹ノ子振舞二逢、夜五ツ半過帰、大小手入、寝、

四月

朔日 四ツ半前二起、入払帳しらべ等、昼後九ツ半頃々観音院神事能⁹³見物二行、猿座敷与檀風金作見物
いたし八ツ過二帰、尋而中惣江一寸寄、留守、早数江一寸寄、留守、黒田丈右衛門江一寸寄、直二青木江
行、辻も行あり、岡山勝右衛門⁹⁴も同咄、碁各数番、同所祭二而酒吞等、夜五ツ時頃二帰、大小手入、
寝、

二日 六ツ半頃二起、髪結来、役所江出、揃日、昼九ツ時頃二済帰、尋而山十、土田兩人誘、皆連而宮腰
浜江遊行、茶湯之所も見物いたし等、浜二柳原家内⁹⁵行あり、逢馳走、七ツ半過二宅江帰、大小手入、

89 観音院Ⅱ卯辰山のふもとにある真言宗寺院。三代藩主前田利常夫人珠が堂宇を寄進し、以後安産の観音とし
て信仰を集める。鎮守山王社では明治まで神事能が続けられた。

90 吉田左近右衛門Ⅱ吉田流弓術師範。馬廻組に属し、禄高七百五十石。金沢東本願寺末寺の横に住む。

91 遠所立用意Ⅱ能登へ出かけた。四月十五日に帰ってきている。

92 馬淵順八Ⅱ従弟中村小太郎の妹しづの嫁ぎ先。登場人物一覧参照。

93 観音院神事能Ⅱ三代加賀藩主前田利常の次男千勝(後の富山藩祖前田利次)の宮参りの折、小謡などを謡った
のがはじまりという。毎年四月朔日、二日に行われ、明治まで続いた。

94 岡山勝右衛門Ⅱ登場人物一覧参照。

95 柳原家内Ⅱ柳原郁五郎の家族。

モ寝、

三日 五ツ半過二起、小児守等、起止録調等、昼後九ツ半頃々坂井稽古所江行、木工馬老鞍、山東江行、咄、八ツ半頃二帰、大小手入、圀橋方二而祭二付稼亭兄弟等来、同咄等、夜五ツ時頃二、先家来七助二足為捫、寝、

四日 五ツ半頃二起、謡檀風老番謡、磯野来咄、岡検使役口書式通直し等、昼後去、小児守等、九ツ半頃々山余来、謡春榮老番、尋而坂宇来、同咄、跡々中惣も来、同咄、酒吞等、七ツ半前々皆連而観音下水茶屋⁹⁶江寄、直二野々市屋江行、晚二帰、夜大小手入、寝、

五日 五ツ半過二起、起止録調、宅二而巻藁三拾本斗射、間二髪結来、昼より中惣江行、寄日、途二早数江一寸寄、暫咄、寄々御用談相済候上、碁打等、咄、晚二帰、大嶋稼亭江寄、咄、夜四ツ時前二帰、大小手入、寝、

六日 六ツ過二起、役所江出、取次人老入、口書老通外二口書三通直し、夜九ツ半頃二済帰、大小手入、寝、

七日 四ツ半頃二起、森守来、咄、昼前二去、風邪氣二而休、眠間二山余来、暫咄去、又七ツ時頃々山余重而来、咄、謡鉄輪老番無本、夜六ツ時頃二去、源太来、暫咄、去、寝、

八日 五ツ時二起、大小手入、五ツ半前々役所江出、昨日之口書清書為読合等、昼後八ツ半過二済帰、直二丹羽留守江一寸見廻、尋而坂井稽古所江行、咄等、七ツ半過二帰、起止録調、宅二而巻藁式拾五本斗、夜、大小手入、寝、

九日 五ツ過二起、髪結来、尋而田井天満宮江祭礼二付参詣、直二坂宇江行、暫咄、四ツ時頃々直二土谷江行、碁打、跡々中惣来、同咄、碁中惣与都合式拾五番斗打、夕青木一寸自分来、同咄、祭二付小謡等、晚二帰、夜大小手入油ぬり、寝、

十日 五ツ前二起、宮腰遊行⁹⁷用意等、五ツ半頃々家内連而広岡町端二而休、同所江辻家内等、青木家内、岡山勝右衛門家内、同役青木、磯野之外不残并岡山勝右衛門来、皆連而大野御舟小屋江行、稽古舟之内二而一杯初、同所御舟不残拝見等、余、先二一寸堀内兵次方江行、昼後々大野弁吉⁹⁸方江行、からくり人形かざり有之を見物いたし、直二宮腰江浜通り廻り、皆着寺之座敷かり、大鯛塩かまり等、辻之をか指開キ、晚二又浜江出帰路、広岡端茶屋二而又暫休、夜五ツ半頃二帰、圀橋方二而咄等、寝、

十一日 四ツ時過二起、小児守等、昼午睡、森守来、咄、碁老番打、去、右碁式篇打返し等、宅二而巻藁式拾五本、晚々寝、

十二日 五ツ過二起、髪結来、宅二而巻藁式拾五本斗、大小手入、昼後起止調、九ツ半過々辻江一寸寄、青木江行、岡山勝右衛門与碁式番打、跡々辻、土谷、中惣も来、同咄、碁打等、晚二帰、夜寝、

十三日 六ツ過二起、役所江出、口書数通直し等、夕七ツ時過二済帰、小児守等、開闔院様日記読等、夜モ寝、

十四日 四ツ時頃二起、風呂立あり漏浴、髪結来、是日朝之内異国船老艘⁹⁹宮腰浦等航行由、昨日読残之日記読等、昼々中惣来咄、碁数番等、夕七ツ時前二同人芝山平右衛門と呼二来、一寸行、又来、又碁数番打、咄、間二一寸山余来、去、夜九ツ時頃二中惣去、寝、

十五日 五ツ過二起、髪結来、宅二而巻藁式拾五本斗、大小手入、昼九ツ頃々山余誘、丹羽能州帰之迎二行¹⁰⁰、森下二而逢、欄橋并大樋二而暫宛休、咄等、七ツ時前二一寸宅江帰、尋而又丹羽江行、咄等、夜五ツ半頃二帰、寝、

十六日 六ツ半過二中惣誘二来、起、弓、碁、将棋等、五ツ時頃二土田江一寸誘、磯野江行、余一寸村上勘陸方江行、又磯野江行、中惣与碁式番打、同所二において四ツ時頃々の射、老立者式拾本当ル、又老立者拾八本当ル、又十度者九本当ル、其外肩入并度数不取分老立斗、間二碁式、三番打等、夕七ツ時過二帰、直二山王祭¹⁰¹見物等、七ツ半過二帰、宅二而巻藁拾五、六本射、晚々丹羽椎溪江行、咄、夜五ツ半過二帰、寝、

十七日 五ツ過二起、髪結来、学校江出座、周霄問曰、古之君子仕平之章一章、平松小右衛門、直二役所江出、寄日、昼済直二青木江土田、磯野之外何茂行、碁打等、晚二帰、直二大嶋江一寸寄、留守、丹羽江行、稼亭も行あり、同咄、夜四ツ時過二帰モ寝、

十八日 六ツ半二起、役所江出、取次式人、口書式通、外二口書直し等、夜六ツ時頃二済帰、寝、

96 水茶屋Ⅱ路傍で湯茶などを供して休息させる店。

97 宮腰遊行Ⅱ宮腰は現在の金沢市金石町。港町で海運業が盛んであった。宮腰の浜へ出かけるのは、当時のレジャーのひとつであった。

98 大野弁吉Ⅱ中村屋弁吉。京都から石川郡大野村（現在の金沢市大野町）に移住したことから大野弁吉と呼ばれる。博識多才の人物。からくり人形等を多数製作。

99 是日朝之内異国船老艘Ⅱ『加賀藩史料』幕末篇上巻六八九〜六九〇頁。

100 丹羽能州帰之迎Ⅱ三月二十六日に出發している。

101 山王祭Ⅱ観音院鎮守山王社の祭。

十九日 五ツ時二起、起止録調等、五ツ半頃方役所江出、昨日之口書清書為読合等、八ツ時過二仕廻、直ニ土田江一寸寄、同人は日検使出役、直ニ磯野江行、中惣、土谷与的射、土谷者数取扱、是日少々雨降、耆立拾五本当ル、又五度三本当ル、跡ニ弓術之咄等、夜五ツ半頃二帰、寝、
廿日 五ツ半頃二起、脇坂来、昨日之検使袋披見等、四ツ時頃方連而役所江出、昨日残之清書為読合等、九ツ半頃二済帰、尋而辻江、昨今不快ニ而不参二付、見廻二行、土田、中西、脇坂、土谷皆行あり、跡方磯野も来、同所ニおいて何も巻藁射、余、拾本斗、咄等、夜六ツ時頃二帰、寝、
廿一日 五ツ半過二起、起止録調、髪結来、大小手入等、昼九ツ時頃方土谷、中惣誘二来、連而土田一寸誘、磯野江行、的射、耆立者式拾七本当ル、又耆立者拾九本当ル、其外小的射等并巻藁射、夕七ツ半頃二帰、丹羽椎溪江行、咄、夜六ツ半過二帰、
廿二日 五ツ半頃二起、圮橋方家内、進士若隱居殿等何茂連而、宮腰堀内兵次方江行、浜方御船小屋江行、五郎嶋迄船二乗遊行、晚二帰、夜五ツ時頃二帰宅、毛寝、
廿三日 昼九ツ時前二起、小児守等、宅ニ而巻藁式拾五本斗、八ツ時頃方辻江一寸寄、留守、青木江行、岡山勝右衛門与基式番打、七ツ時前二帰、直ニ大嶋江寄、咄、夜五ツ時頃二帰、寝、
廿四日 四ツ時頃二起、小児守等、御触写し等、昼方午睡、八ツ時過二起、山十江一寸寄、同人連而土田江誘二行、留守、磯野江行、昨日岡検使之由ニ而口書耆通直し等、的射耆立拾九本当ル、跡ニ咄等、夜五ツ時頃二帰、途ニ蕎麦店江寄、帰、寝、
廿五日 六ツ半二起、髪結来、天満宮江参詣¹⁰²、中惣江一寸寄帰、宅江中惣、土谷来あり、皆連而山十并土田誘、磯野江行、古沢門弟連中三人来、何茂的射、余耆立者式拾三本当ル、又耆立者所持之指弓ニ而拾三本当ル、其外度数不取拾五本斗、昼後八ツ時頃二帰、中惣、土谷与山十江寄、基中惣与五番打、土谷者同所より牢死見届ニ出、先是脇坂も山十江来、同咄、七ツ時過方中惣、脇坂、宅江来、巻藁射、跡方辻、土谷も宅江来、同咄等、夜六ツ時頃二皆去、寝、
廿六日 六ツ過二起、役所江出、是日青木見合、取次耆人、口書耆通、外ニ口書直し等、昼九ツ時過済帰、直ニ河原町道具屋江何茂弓見二行、直ニ辻江行、何茂巻藁射、余都合式拾本斗、跡ニ中惣、脇坂、余三人残り基打、咄等、夜五ツ時頃二帰、寝、
廿七日 五ツ時前二起、磯野江一寸行、直ニ青草辻¹⁰³江行、買物調、土田江一寸寄、山十江寄、留守、帰、煮しめ拵手間等、小児守等、昼九ツ時頃方脇坂誘二来、連而磯野江行、土田、山十行あり、巻藁五、六本射、跡方中惣、土谷、辻追々来、的射耆立者拾七本当ル、又式拾度者拾八本当ル、其外耆手之当合、又五六之当合□□、小的并夜之的射等、是日余同所江重結¹⁰⁴酒肴等持行、何茂江振舞、夜五ツ半頃二帰、中惣・土谷又宅江寄、咄等、八ツ時頃二去、毛寝、
廿八日 四ツ時過二起、髪結来、起止録調、昼後大小手入、宅ニ而巻藁式拾五本斗、八ツ半頃方本光寺江参詣、直ニ坂井稽古所江行、咄等、夜六ツ時過二帰、寝、
廿九日 四ツ時二起、土田来、咄、巻藁射等、基三番打、昼頃去、尋而又巻藁射、山十来、中惣も来、各巻藁射等、余都合百本斗射、中惣与基八番打、土田、辻、磯野、脇坂追々跡方来、七ツ時過方皆連而馬場江行、不時馬余一匹式場乗、晚二帰、尋而丹羽椎溪江行、咄、夜九ツ頃二帰、寝、

五月

朔日 六ツ半二起、丹羽椎溪誘連而白山宮¹⁰⁵江参詣、夕七ツ半頃二帰宅、中惣江紙面調等、休、夜髪結来、毛寝、
二日 六ツ半過二起、役所江出、取次耆人、一通り夕八ツ半過二済帰、直ニ辻、青木、脇坂之外何茂磯野江行、是日弓一張買求、右弓ニ而耆立的射、拾八本当ル、度不取四、五手射、晚二帰、夜寝、
三日 五ツ半頃二起、起止録調等、小児守等、宅ニ而巻藁、昼前後二百本斗、八ツ半過方坂井稽古所江行、七ツ半頃方直ニ土田江行、咄、基四番打、夜咄、五ツ半頃二帰、寝、
四日 五ツ半頃二起、宅ニ而巻藁五拾本斗、風呂立あり漏浴、昼九ツ時前方土田江行、昼後同人方馬二乗、宮腰方大野橋、栗ヶ崎江廻り浅野川堀川ニ而川入いたし、馬場上ノ口迄乗、同余四里斗乗、坂井稽古所江一寸寄暫咄、辻、中惣馬場江来あり、連而晚二宅江帰、咄、夜五ツ時頃方皆連而又辻江行、同所江土谷行あり、検使書付土谷持参二付、読等、又色々咄、晚七ツ時前二帰、寝、
五日 五ツ半頃二起、竹之露かふり等、土谷来、咄、間ニ髪結来、昼頃土谷去、宅ニ而巻藁式拾五本斗、

¹⁰² 天満宮江参詣：…田井天満宮（椿原神社）への参詣。毎月、菅原道真の月命日二十五日に豫卿は田井天満宮に詣する。

¹⁰³ 青草辻…現在の近江町市場武蔵辻口付近。野菜の市場。

¹⁰⁴ 重結…重詰か。

¹⁰⁵ 白山宮…白山比咩神社。

屋後九ツ半過る丹羽椎溪江行、咄、夜六ツ半頃二帰、寝、
六日 六ツ半二起、役所江出、是日辻、中西検使などいまた不帰、取次式人、口書式通、外二四通直し等、
七ツ半過二済帰、直二一寸大嶋江寄帰、圀橋方二而咄等、晩々寝、
七日 五ツ半過二起、起止録調等、井佐来、咄、巻藁各式拾五本斗、暮三番打、的張貫等、間二中惣、土
谷来、同咄、余中惣与暮拾六・七番打、間ニタ七ツ時頃井佐去、夜六ツ時過二皆去、寝、
八日 五ツ半頃二起、巻藁式拾五本斗、小兒連而卯辰真性院¹⁰⁶井本光寺江参詣、墓参、昼前二帰、昼後大
小手入、八ツ時前る中惣誘二来、尋而土田も来暫咄、皆連而磯野江行、的耆立拾六本当ル、其外小的并
度不取拾五、六本、晩二帰、夜寝、
九日 五ツ半頃二起、圀橋方江木下平之介来あり、同咄等、髪結来、起止録調等、昼後る辻安江行、暫咄、
暮一番打、青木江一寸見廻二行、又辻連而土田江行、途二中惣、土谷二逢、皆連而山十江一寸寄、土田江
行、又辻与暮式番打、馬場見物二行、不時馬一匹式場乗、晩二帰、瀧沢、辻、中西、土谷宅江来、暫、
余、瀧沢与暮宅番打、夜六ツ半頃二皆去、モ寝、
十日 五ツ半過二起、小兒守等、巻藁式拾五本斗、屋後豊嶋虎三郎来、暮六番打、八ツ半過二去、尋而長
田組御細工人方江矢買求二行、直二磯野江行、暫咄、跡る土田も来、的耆立拾五本当ル、跡ニ又弓仕懸
習等咄、夜五ツ時過二帰、モ寝、
十一日 昼九ツ時過二起、小兒守等、間ニ八ツ過る七ツ時過迄磯野来、咄等去、起止録調、是日る諸事年
回相当ニ付きよめ、夕又小兒守等、晩々寝、
十二日 五ツ半過二起、諸事御記帳しらべ等、間ニ小兒守等、昼後九ツ半頃る八ツ過迄脇坂来咄、八ツ半
頃る七ツ半頃迄梅環来、咄去、尋髪結江行、髪結帰、夜寝、
十三日 六ツ時過二起、役所江出、取次式人、口書式通、外二口書直し等、七ツ時頃二済帰、本光寺江参
詣、墓参、帰、小兒守等、晩ニ料理人孫兵衛来、当十六日料理方申付等、夜寝、
十四日 五ツ過二起、菓子配ル口上書并十六招客之紙面調遣等、昼後八ツ時過頃る中惣、土谷来、看暮等、
咄、夕七ツ半過二去、小兒守等、夜寝、
十五日 是日筑前守様¹⁰⁷御帰城、五ツ過二起、終日明日来客之用意并唐紙張等、晩ニ小兒守等、夜寝、
十六日 五ツ過二起、仏前鏝物等、人來用意品々、間ニ髪結来、昼後八ツ半時る本光寺和尚等追々来、
別ニ簿ス、夜六ツ時過二本光寺和尚去、引続而丹羽椎溪咄二来、稼亭、圀橋も跡ニ残り同咄等、夜八ツ
半時頃二皆去、寝、
十七日 五ツ半頃二起、是日役所寄日も不参、道具方付等、四ツ時過る本光寺江参詣墓等、昼頃二帰、午
睡、諸事帳面諸しらべ等、夕八ツ半過る黒田丈右衛門来、咄、酒為吞等、源太も跡る来内酒為吞、七ツ
半頃二皆去、小兒守等、夜モ寝、
十八日 六ツ過二起、役所江出、取次老人、口書式通、是夜晩七ツ半前二済帰、寝、
十九日 四ツ時頃二起、海防秘言九枚半写し、是安屋来、咄、去、四ツ時頃る役所江出、此間之口書清書為読
廿日 五ツ過二起、海防秘言耆枚半写し、是安屋来、咄、去、四ツ時頃る役所江出、此間之口書清書為読
合等、八ツ時過二帰、中惣、磯野、土谷、山十、宅江来、弓弘物見等、余巻藁拾本斗射、八ツ半過二皆
去、海防秘言五枚写、晩ニ起止録調、晩る丹羽椎溪江行、咄、八ツ時前二帰、寝、
廿一日 五ツ過二起、海防秘言三枚写、四ツ時頃る役所江出、此間口書清書為読合等、八ツ時頃二済帰、
大小手入、津幡屋嘉兵衛来、暫咄去、中惣是日定役被仰付二付、一寸来去、起止録調、七ツ時過る海防
秘言三枚写、小兒守等、夜寝、
廿二日 五ツ半二起、終日海防秘言拾八葉写し、間ニ昼後坂宇来、暫咄去、夕七ツ半過る梅環来、咄、晩
二去、夜行灯張等、寝、
廿三日 五ツ過二起、海防秘言九枚写し、是二而全写上ケ、昼後九ツ時過迄二本仕立あげ等、宅二而髪結、
八ツ時る早数江行、暫咄、中惣江一寸寄、田邊皆右衛門¹⁰⁹、脇坂清太郎行あり、直ニ土谷江寄、暫咄、
森守江一寸寄、毛利茂八郎¹¹⁰江一寸行、又土谷与一集中惣江行咄、余、田邊与暮式番打、跡ニ巻藁射、
咄等、夜六ツ時頃二帰、小兒たんしやう日¹¹¹ニ付あか之飯祝等、圀橋方江源太行あり、咄等、夜四ツ時
過二寝、
廿四日 五ツ半過二起、小兒守等、四ツ過る小兒連而永井平右衛門江行、咄等、昼前二帰、杉本賢作来、

106 卯辰真性院Ⅱ卯辰山の日蓮宗寺院真成寺のことと思われる。読みが同じなので、「真性寺」と当て字で記した
のであろう。

107 筑前守様Ⅱ十三代藩主前田斉泰嫡男慶寧。のちの十四代加賀藩主。この日江戸から金沢へ到着し、金谷御殿
に入った。『加賀藩史料』幕末篇上巻六九九頁。

108 海防嗟歎秘言Ⅱ海防に関する写本。現存する本は石川県立図書館の所蔵で、四十五丁からなる。

田邊皆右衛門Ⅱ登場人物一覧参照。

毛利茂八郎Ⅱ公事場附与力。登場人物一覧参照。

111 小兒たんしやう日Ⅱ子供の誕生日。赤飯などで祝う習慣があった。

暫咄去、昼々土谷、中惣来、巻藁等拾本斗射、井佐来同咄、看基等、八ツ前々皆連而土田誘、磯野江行、的射老立ハ拾六本当ル、老立ハ拾三本当ル、其外小的等半度斗射、巻藁五・六本射、晚二帰、夜丹羽椎溪江行、咄等、九ツ時過二帰、寝、

廿五日 五ツ半過二起、起止録調、漏浴二行、帰尋而田井天満宮江参詣、昼頃帰、午睡、小児守等、宅二而巻藁式拾五本斗、宅二而髪結来、屋根方与三次来、咄等、晚二去、夜モ寝、

廿六日 六ツ半過二起、役所江出、出揃日、足輕棒稽古有之、昼後八ツ半前二済、直二中村十三郎¹¹²江当十八日同人父仕兵衛病死之悔二一寸行、直二中藤江寄暫咄、直二坂平江寄暫咄、帰、小児守、起止録調等、森守来、暫咄去、海防秘言校正等いたし晚二小児守等、夜寝、

廿七日 五ツ前二起、土田誘磯野江行、的射立七本当ル、度数不取拾度余、昼帰、圀橋方開闢院様等法事二付よばれ、夕又よばれ、間二九ツ半前々七ツ時頃迄井佐来、孟子一章質問、跡二碁七番打去、夜寝、廿八日 五ツ過二起、丹羽椎溪江行、咄、四ツ時頃二帰、小児守等、髪結ハ代人来、四ツ半頃々本光寺江参詣、墓参、直二坂井稽古所江一寸寄、昼帰、尋而中惣、土谷誘二来、連而磯野江行、同役青木、脇坂之外何茂打寄、的式立射、老立ハ拾七本当ル、老立者式拾本当ル、其外小的等度不取的式拾度斗、跡二咄、夜六ツ時頃二帰、寝、

廿九日 五ツ半頃二起、起止録調、宅二而巻藁、式拾五本余、圀橋方江木下平介来あり、同咄、昼後青木江行、同人当廿五日々御門前町吉田崎右衛門方江同居、土田も行あり、同咄、碁五番打、跡々脇坂も来、同咄、七ツ半頃々皆連而馬場江見物二行、晚二帰、夜寝、

晦日 五ツ過二起、昨日々来月三日迄備後守様御卒去二付¹¹³遠慮、土谷誘二来、連而磯野江行、中惣、土田も皆行、皆連而住吉社内的場江行、老立ハ拾十六本当ル、跡拾五度斗射、昼後帰、午睡、小児守等、七ツ時頃々磯野来咄、七ツ半頃々連而中惣江寄、留守、早川江行、暫咄、又中惣江行、巻藁拾五、六本射、磯野先二去、夜五ツ半頃迄咄、帰、寝、

六月

朔日 五ツ過二起、海防秘言校正等、四ツ時頃々中惣、土谷誘二来、連而磯野江行、的終日、巻藁も拾本斗射、同役青木、脇坂之外何茂来、的四立内拾七与廿十三、式篇当ル、其外度不取、紙具足胴を的二いたし射等、老立斗、晚二帰、尋而木下平之介江行、友田大作行あり、どちよ振舞二逢、色々咄等、晚七ツ時頃二帰、寝、

二日 五ツ時頃二中惣来、起、暫咄去、今日遠慮二付役所相止¹¹⁴、中惣ハ出牢もの有之二付石野殿¹¹⁵江出、小児守等、暫相立、又中惣来、咄、的式ツ張貫、半切物式枚揮毫いたし等、碁三番打、七ツ過々土谷来、尋而皆連而田井天満宮江参詣、同所神主方的場二而中惣、余、并神主三人二而拾五度射、拾本当ル、跡二暫咄、夜六ツ時前二帰、直二中惣江行、土谷も同寄咄、夜四ツ半頃二帰、寝、

三日 五ツ半過二起、宅二而髪結、起止録調、御触留いたし等、宅二而巻藁拾本斗、昼後土田、磯野来、咄、間二湯あみ、八ツ時過々皆連而中惣江行、又咄等、土谷も来、八ツ半過々皆連而横山蔵人殿同心組屋敷の場江行、老立十七本当ル、同所江田邊皆右衛門、坂井仙之丞、多田逸次郎、長屋勘左衛門見物二来、跡二又三度射、晚二帰、直二皆土谷江寄、咄等、夜五ツ前二帰、圀橋方江椎溪来あり、咄、九ツ時頃二去、寝、

四日 四ツ半頃二起、小児守等、昼起止録調等、大小手入、蒙求しらべ読等、但、当両部鼓吹之句二付考求、七ツ半頃々永井平右衛門江行咄、夜五ツ時頃二帰、寝、

五日 五ツ半過二起、小児守等、宅二而髪結、海防秘言校正等、昼後九ツ半時々寄日二付磯野江行、七ツ時頃二済、跡二何茂的射等、老立拾四本当ル、又三度は四本当ル、跡二咄等、夜六ツ時過二帰、寝、

六日 六ツ半二起、役所江出、取次老人、口書老通、以口懸式拾式ヶ条巻紙五巻斗調、夜五ツ時過二済帰、引弓五、六篇、寝、

七日 六ツ過二起、是日々土用二入、六ツ半時二磯野江行、的射、跡々中惣、土谷も来、同射、都合式立之内、余指痛、老立与拾三度射、老立ハ九本当、拾三度ハ拾一本当ル、直二皆連而役所江出、昨日之清書為読合等、八ツ半頃二済帰、直二辻、脇坂、土谷与中惣江寄咄、巻藁射等、七ツ半頃々皆連而蔵人殿¹¹⁶の場江行、式拾老度、内拾三本当ル、間二九度目々岡本勇左衛門、森嶋守人、斉藤八蔵来、同射、晚二

112 中村十三郎「登場人物」一覽参照。

113 備後守様御卒去二付「五月二十三日、十二代大聖寺藩主前田利義が亡くなった。

114 今日遠慮二付役所相止「大聖寺藩主前田利義の忌中のため、役所は休みとなった。

115 石野殿「公事場奉行石野氏衙。役所は休みでも、延期できない仕事、その日に済まさなければならぬ仕事は奉行宅で行われたと思われる。

116 蔵人殿「横山蔵人政和(一〇〇〇〇石)。父は漢詩にすぐれ致堂と号した横山政孝。

帰、直二又中惣江寄咄、夜五ツ時頃二帰モ寝、

八日 五ツ半前二起、起止録調等、磯野、中惣、土田追々二来、暫宛咄去、昼前々松寺村四郎右衛門来咄、昼去、宅二而髪結、八ツ時頃々青木、進士、林助、馬淵、内蔵助殿、辻安、山崎殿、岡嶋殿、井口誠士郎、木下、丹羽江土用見廻二行、七ツ半頃二帰、湯あみ、青木来、暫咄去、夕小児守等、晩々丹羽椎溪来咄、夜九ツ半過二去、寝、

九日 六ツ半二起、中惣、土谷誘二来、連而磯野江行、的耆立十二本当ル、所持之弱弓、跡々土田も来、小的式度ニ耆本当ル、土田去、咄等、昼前々皆連而住吉的江行、涼ミ等、的都合三立射、三立共十六本当ル、土田も跡々又来、小的三度射、内耆本当ル、其外式十間之的并高的、六間之的等色々射、夕七ツ半前二帰、直二坂井稽古所江寄、木工馬耆鞍角乘、晩二帰、湯あみ、夜寝、

十日 五ツ時頃二起、馬淵順八一寸来去、尋而坂宇来、暫咄去、小児守等、具足曝等、起止録調、八ツ時々海防秘言校正全仕上ケ、御触留いたし等、夕湯あみ、宅二而巻藁拾本余、晩々寝、

十一日 五ツ時前二起、宅二而髪結、土用見廻¹¹⁷ニ西坂善藏等、同苗四郎兵衛、同久太郎、山十、土田、古沢、南保、磯野、湯原、梅村、中藤、多田江行、昼前二帰、午睡、小児守等、八ツ半前々又土用見廻ニ音地、斉判留守、桜井、早数、遠田、水野大作、中惣、早儀留守、不破丈右衛門、坂井伊大夫、同宇右衛門、猪俣、毛利茂八郎、森守、土谷、豊嶋、大嶋稼亭江行、同所二而暫咄、晩二帰、湯あみ、夜山東江行、丹羽行あり、同咄、夜九ツ半頃二帰モ寝、

十二日 六ツ時前二中惣誘二来、連而磯野江行、的式立射、皆十四本宛当ル、跡々土谷も来、皆連而四ツ時前々役所江出、明日御吟味ものしらべ問懸式巻各調等、七ツ時頃済帰眠、森守来、暫咄去、湯あみ、椎溪江遣紙面調等、七ツ半過々坂井稽古所江行、山余行あり、同咄等、夜九ツ時前二帰、寝、

十三日 六ツ過二起、髪結江行、髪結帰、六ツ半過々役所江出、楠鍵三郎等富山富突一件吟味、主付辻、土田、

十四日 昼九ツ時頃二役所済帰、午睡、八ツ半過々中惣、土谷誘二来、連而土田誘磯野江行、的耆立十一本当ル、晩二帰、湯あみ、夜寝、

十五日 六ツ過二中惣誘二来、連而磯野江行、的耆立昨日之通十一本当ル、昼前二帰、午睡、小児守等、八ツ半頃々辻安来、咄、七ツ過二去、湯あみ、七ツ半頃々丹羽椎溪江行、小児連而懸□□□□、帰、同人明日々越中廻り咄、夜四ツ時前二帰モ寝、

十六日 六ツ半頃々磯野江行、跡々中惣、土谷も来、的式立十四本宛当ル、四ツ時過々直二役所江出、此間之口書清書為読合等、八ツ半頃二帰、小児守等、圀橋方江稼亭来あり、同咄、七ツ半頃二去、大小手入、湯あみ、晩々寝、

十七日 六ツ半二起、髪結江行、髪結帰、尋而五ツ過々学校江出、講書聴聞、宋小国也、今将行王政、斉楚惠而伐之章、西坂先生¹¹⁸、直二四ツ過々役所江出、寄日井□□口書清書、殘為読合等、夕八ツ半頃二済帰、南町羽食屋江廻り直二辻、青木、山本之外何茂磯野江行、的式立拾五本宛当ル、跡二小的等、咄、夜五ツ時頃二帰、寝、四ツ時頃二檢使被仰渡、山本江遣紙面等、又暫眠、

十八日 曉七ツ時前頃二山本誘二来、連而周防守殿¹¹⁹家中檢使宿瑞光寺江行、死後見届□□相糺口上書等下もの調、見届書調等、

十九日 昼後八ツ半頃二引揚者有之、兩人共石野殿江出、七ツ半前二帰宅、湯あみ、寝、

廿日 五ツ半前二起、中惣江檢使引揚案内紙面遣等、昨日之口書下もの読等、四ツ半頃々磯野、中惣、土谷、土田追々来、咄等、昼九ツ時頃二去、月代迄剃、昼後辻江一寸寄、留守、脇坂江行、寄日、七ツ時過二済、跡二色々咄、晩二帰、直二土田与山十江行、同人異見咄等、夜五ツ時頃二帰、寝、

廿一日 五ツ半過二起、松寺村四郎右衛門来、咄等去、起止録調、小児守等、書物曝¹²⁰、昼頃中惣一寸来去、尋而井佐来、咄、碁数番打、雨降二付井佐二手伝私書物方付申、七ツ時頃二去、湯あみ、尋而中惣又誘二来、連而磯野江行、土谷も行あり、的地面湿二付、高的十度射五本斗当ル、晩二帰、夜吉藏来、咄、米買貰等、寝、

廿二日 六ツ過二起、中惣、土谷誘二来、連而磯野江行、的式立廿耆本与十六本中、昼前二帰、山十一寸来去、小児守等、午睡、湯あみ、圀橋方江稼亭来、同咄等、夕七ツ半頃々髪結江行、髪結直二永井江行、咄、夜六ツ半頃二帰、寝、

廿三日 六ツ過二起、中惣、土谷誘二来、連而磯野江行、的式立十四与十九中、昼帰、書物晒、午睡、孝友堂先生¹²¹来、暫咄去、湯あみ、書物方付、月懸頼母子算用いたし等、夜吉藏来、暫咄等去、尋而嘉六

117 土用見廻：土用見舞の人々については登場人物一覽参照。

118 西坂先生：豫卿の師、西坂成庵。

119 周防守殿：加賀八家の一人本多政通（五〇〇〇〇石）。

120 書物曝：書物晒。曝書、虫干。

121 孝友堂先生：西坂成庵のこと。

来、又暫咄去、寝、

廿四日 六ツ時二起、中惣、土谷誘二来、連而磯野江行、的終日五立与拾五度射、拾九本与十一本与廿二本与廿八本与廿一本与十五度二十一本中、同役追々二見物等二来、但辻ハ不来、山十八昼前二去、其外瀧澤永五郎¹²²、北川亥之作¹²³見物等二来、先二去、別ニ菊田丈五郎¹²⁴、吉田忠次郎¹²⁵、磯野見物等、的尅立見物いたし跡ニ何茂一杯呑、咄等、夜六ツ時過二帰、湯あみ、源太来、暫咄去、寝、

廿五日 五ツ時過二起、起止録調、四ツ前々佐藤市右衛門并井佐江土用見廻二行、直ニ田井天満宮江参詣、直ニ中惣江寄、暫咄、連而永井平右衛門江行、同人同日山本故勘兵衛家作相求、転宅届書付并案内紙面調等、跡ニ咄、中惣与基三番打、跡々小杉源兵衛并坂宇も来、同咄等、晚二帰、夜髻すりモ寝、

廿六日 六ツ時二起、髪すり髪結来、髪結、六ツ半前々役所江出、取次老入、口書老通、外二口書直し等は日越中屋幸右衛門懸り一件、

廿七日 昼前四ツ半頃二役所済帰、眠、昼九ツ時過二湯あみ又寝、夜六ツ時頃二起、蕎麦給、暫小児守、又寝、

廿八日 五ツ前二起、起止録調、丹羽椎溪留守江一寸見廻二行、直ニ五ツ半過々役所江出、昨日之口書清書為読合等、八ツ時過二仕廻、直ニ辻江行、同人は日茨木主殿向岡山勝右衛門家作買求引移、暫咄、七ツ時過二帰、直ニ大嶋稼亨江行咄、梅環行あり、同咄、夜五ツ半過二帰、寝、

廿九日 五ツ時頃二起、髪結来、大小手入、四ツ時前々役所江出、口書清書為読合等、七ツ時過済帰、湯あみ、小児守等、巻藁式拾五本斗、又小児守等、夜梅環来、中庸四、五節弁解聞¹²⁶等、五ツ時過二去、寝、晦日 六ツ半過二土田誘二来、起、連而大樋江行、余森下町々土田之馬二乗、大樋迄行、暫休帰、七西之小路々土田二別レ本光寺江参詣、墓参、五ツ半前二宅江帰、半日の四ツ張、午睡、八ツ過々中惣誘二来、暫咄等、連而土田誘磯野江行、跡々土谷も来、的式立廿二本与十八本当ル、晚二帰、夜暫小児守等、寝、

七月

朔日 六ツ半二起、すゝ払二付具足方付等、五ツ時頃々佐野屋江一寸寄、磯野江行、的式、三手射、咄等、跡々土田、中惣、土谷追々来、的式立、甘本宛中ル、昼帰、小児守等、午睡、起止録調、大小手入、髪結来、湯あみ、七ツ半頃々丹羽椎溪江行、昨日遠所々帰着、咄、夜四ツ時過二帰、寝、

二日 六ツ半前二起、役所江出、取次老入、口書式、三通直し等、役所々拝領銀受取¹²⁷、暮七ツ半過二役所済帰、湯あみ、夜寝、

三日 五ツ時過二起、研師平四郎方江一寸寄、直ニ丹羽椎溪江行、暫咄、四ツ時過々役所江出、昨日之口書清書為読合等、夕七ツ時前二済帰、直ニ青木江一寸寄、暫咄、土田与基老番打、七ツ半過二帰、尋而丹羽椎溪誘二来、連而山東江行、咄等、夜四ツ頃二帰、湯あみ、寝、

四日 五ツ時過二起、終日入払しらべ方等、間ニ午睡、豊嶋虎三郎一寸来去、夕七ツ半前頃々中惣江一寸行、咄、そうめん等振舞二逢、夜六ツ時頃二帰、直ニ早川数之助江寄、銀子返済、暫咄、夜六ツ半頃二帰、湯あみ、寝、

五日 五ツ時過二起、又入払しらべ等、五ツ半頃々辻安来、暫咄、尋而中惣来、同咄等、四ツ時頃々中惣連而岡嶋殿江出¹²⁸、去暮借用銀返上いたし、四ツ半頃二帰、又入払しらべ等、午睡、八ツ時頃々青木江行、暫咄、銀子返済、直ニ山十江寄、留守、土田江行、暫咄、連而先達而矢買求候所江行、代銀返済、直ニ磯野江行、暫咄、的尅立射、廿一本中ル、晚二帰、尋而丹羽椎溪来、咄、間ニ湯あみ、夜九ツ時頃二椎溪去、寝、

六日 六ツ時過二起、役所江出、取次式人、口書老通直し等、暮七ツ半過二済帰、湯あみ、風邪氣ニ而葛根湯吞等、寝、

七日 五ツ半頃二起、小児守等、昼前二松寺村四郎右衛門来、咄等去、起止録調、風邪氣ニ而休居、夕七ツ時前々中惣来、咄、酒吞等、七ツ半過々連而磯野江行の十五射、十三本中、跡ニ夜二入、燈無之、三度斗射、跡ニ咄等、夜五ツ時過二帰、直ニ大嶋江一寸寄、留守、帰、寝、

八日 五ツ時過二起、宅ニ而髪結、四ツ時過々役所江出、昨日之口書清書為読合等、昼後八ツ時前二済、直

122 瀧澤永五郎 公事場附与力。以下登場人物一覽参照。

123 北川亥之作 公事場附算用者。登場人物一覽参照。

124 菊田丈五郎 菊田篤太郎の弟。登場人物一覽参照。

125 吉田忠次郎 弓術師範吉田権平の子。登場人物一覽参照。

126 中庸四、五節弁解聞……梅環は豫卿のところに素読指導を受けに通っているらしい。八月四日には「詩経」の素読指導をうけている。

127 役所々拝領銀受取 半年分の給銀を受け取る。給与は半年ごとに支給される。

128 岡嶋殿江出、去暮借用銀返上いたし……上司にあたる岡嶋一孝より借金をしていたらしく、給与が出たので返済したのであろう。他にも諸支払いを一斉に行っている。

ニ大嶋江一寸寄、暫咄、直ニ永井江寄暫咄、直ニ中惣江行、同役土田、青木、山十之外何茂打寄墓打等、あひる割符喰いたし等、跡々永井、坂井も来、同墓打等、夜九ツ時前二帰、永井江辻、磯野、脇坂与暫寄咄、帰、寝、

九日 五ツ過二起、中惣誘二来、連而磯野江行的拾式度斗、内五度ニ八本中ル、四ツ時過中惣連而吉田稽古所江行、是日終日の老立射、十八本中、中惣与土田江行、食いたし等、尋而又吉田江行、的式立廿一本宛ル、的之間卷藁式拾五本斗射、晚二帰、湯あみ、夜寝、

十日 五ツ半頃二起、岡嶋殿江出、山東頼之祠堂銀返済いたし帰、金子多十郎へ頼置大小持来、暫咄等去、終日入払帳しらべ等并切籠¹²⁹調本光寺江遣等、湯あみ、晚中惣誘二来、暫咄、連而小松屋井口誠士郎頼母子会二行、夜五ツ過二帰、大小手入モ寝、

十一日 五ツ過二起、井佐来咄、間ニ髪結来、井佐与墓、式、三番打、大小手入いたし等、昼後井佐去、小児守等、八ツ時過大嶋江行暫咄、直ニ青木江行暫咄、直ニ辻安江行咄、晚二帰、直ニ又丹羽椎溪江寄咄等、西瓜振舞二逢、夜四ツ半頃二帰、大小手入モ寝、

十二日 四ツ時頃二起、終日当払方并頼母子しらべ等、大小手入、晚々野々市屋江圀橋方頼母子会二行、夜五ツ過二帰、又大小手入、寝、

十三日 六ツ過二起、役所江出、口書直し等、昼後八ツ時過二済帰、直ニ丹羽江寄、暫咄帰、終日入払方しらべ等、夜又同并大小手入、五ツ半頃二寝、

十四日 五ツ過二起、終日当払方いたし等、間ニ大小手入、金子多十郎一寸来去、昼後八ツ半頃岸井太助江一寸行、直ニ中藤江行、暫咄等、坂井并金子江行、皆留守、坂井英助方江行、平六先生与咄、酒吞等、晚々直ニ山十江一寸寄、留守、青木江行、暫咄等、晚二帰、夜又払方いたし等、四ツ時頃二寝、

十五日 五ツ時過二起、又終日昨日之払方跡しらべ等、間ニ髪結来、夕七ツ頃丹羽椎溪江行、跡々山東兄弟追々来、同咄、夜四ツ時過二帰、寝、

十六日 四ツ半頃二起、小児守等、昼前ニ本光寺江参詣、墓參帰、昼後又々当切払跡しらべ等、湯あみ、起止録調等、晚々小児、小者共連而上一文橋¹³⁰辺の大橋¹³¹懸造辺り材木町禪福寺燈籠見物等、夜帰又小児守等、モ寝、

十七日 六ツ時前二檢使被仰渡御用使来、起、紙面調、磯野江遣等、又休、五ツ時前ニ髪結来、間ニ磯野一寸来咄、小児守等、五ツ半過磯野誘暫咄、四ツ過連而光厳前正口寺檢使宿江行、尋而赤子死後見分并手前札口書等調、昼九ツ半前二済帰宅、家来等二酒為吞等、間ニ又磯野一寸来去、小児守等、八ツ半過中惣来、是又檢使出役相談等咄、七ツ過二去、湯あみ、起止録調、七ツ半過圀橋方江稼亭来あり、同咄、夜六ツ過二、モ寝、

十八日 六ツ半前二起、役所江出、口書直通直し等、晚二済帰、土谷宅江寄、連而南保虎之助¹³²御異風組¹³³被仰付祝二行、夜五ツ前二帰、直ニ一寸土谷与磯野江寄咄、五ツ半頃二帰、寝、

十九日 五ツ時頃中惣、土谷誘二来、起、酒吞等、暫咄、四ツ前連而磯野江行、土田も行あり、盆後初而的、終日三立廿五本又廿五本与十八本中、小的老手ニ一本中、其外度不取、又小的等拾四、五度射、七ツ半過二帰、圀橋方ニ而咄等、夜寝、

廿日 五ツ時頃二起、髪結来、進士并大嶋奥様来あり、圀橋方ニ而咄等、起止録調、盆前之的数しらべ等、井佐来、咄、同手伝等、盆前之的数都合六十立与六度、此矢数三千十二本、内中リ矢数千九百本、平均三步三厘五毛之中也、井佐孟子質問等、昼九ツ過二去、尋而山十江行、寄日、跡ニ馳走有之、看墓咄等、跡々永井も来、同咄、夜四時頃二帰、寝、

廿一日 五ツ半過二起、小児守等、終日入払帳しらべ方等、八ツ半過土谷来、咄、晚二去、夜是安屋助三郎来、暫咄去、寝、

廿二日 五ツ半頃二起、半日大小手入等、又入用しらべ等、檢使留書写いたし、夕湯あみ、晚々是安屋助三郎来、咄、酒為吞等、夜五ツ半頃二去モ寝、

廿三日 五ツ半頃二起、小児守等、四ツ時頃井佐来、咄、墓五、六番打、昼後去、是日歯うづき、尋而土田誘二来、連而永井江行暫咄、直ニ坂井宇右衛門江行咄、墓式番打、看墓咄等、七ツ半頃二帰ニ、中惣二逢、皆連而土谷江行、留守、直ニ中惣江寄又咄、夜六ツ半頃二帰、齒悉難義、寝、

廿四日 五ツ時二起、中惣誘二来、連而磯野江行、土田も行あり、的式立拾五本中ル、跡々土谷も来、咄等、昼帰、午睡、黒田丈右衛門来、咄、素麵振舞等、七ツ半頃二去、湯あみ、夜寝、

129 切籠¹²⁹きりこ。金沢では、盆に木枠紙製の切籠灯籠を墓前に吊り下げる風習がある。

130 一文橋¹³⁰浅野川にかかる通行料を徴収する仮橋。一人一文を徴収した。現在の浅野川中ノ橋あたりにかかつていた。

131 大橋¹³¹浅野川大橋。

132 南保虎之助¹³²神明流劍術師範。八家の一つ前田土佐守家の与力。虎三郎の親戚(いとこ)は前田土佐守家の家老役。

133 御異風組¹³³異風は鉄砲の修練を職務とする平士。藩の軍事組織の役職の一つ。

廿五日 五ツ過二起、宅ニ而髪結、起止録調、上納上ヶ下ヶ調等、昼後午睡、夕七ツ時頃々田井天満宮江参詣、直ニ永井江寄暫咄、中惣江一寸寄、同人誘早数江行、咄、本宅地面ニ的場々ならし見分等、夜六ツ時頃二帰一寸丹羽江寄、留守、圮橋方ニ而咄、帰、寢、

廿六日 六ツ半二起、役所江出、取次老入、口書老通、是夜土田、土谷檢使被仰渡、夜九ツ時前二済帰、湯あみ、寢、

廿七日 五ツ半二起、松寺村四郎右衛門来、咄去、小児守等、昼後御触留いたし、上納方しらべ等、起止録調、檢使留書写等、是日夕景々圮橋方ニ而同人明日訓蒙江転役いたしニ付案内紙面調筆、道割いたし等、丹羽椎溪、大嶋稼亭も来あり、同手伝等、暫咄等、夜九ツ時頃二皆去、寢、

廿八日 五ツ半前二起、役所江出、一昨日之口書清書為読合等、昼後八ツ時過二済帰、直ニ磯野江行、中惣、脇坂、山本も同行、余、南保江一寸先日挨拶ニ寄、磯野ニ而的式立拾九本与拾六本中、其外かた入等、晚二帰、又圮橋方ニ而咄等、稼亭兄弟来、安内咄、夜四ツ半頃二寢、

廿九日 四ツ時過二起、小児守等、昼後檢使留書写、夕七ツ半頃々丹羽椎溪江行、咄、夜九ツ時頃二帰、寢、

八月

朔日 五ツ半頃二起、小児守等、又檢使留一冊書写仕上ヶ等、夕七ツ時頃々髪結江行、髪結帰、尋而稼亭

来咄、跡々椎溪子息連来、同咄、晚々皆連而稼亭江行咄、書画揮筆等、夜五ツ半過二帰、寢、

二日 六ツ半二起、役所江出、取次老入、口書老通、暮六時頃二済帰、夜圮橋方ニ而暫咄、寢、

三日 五ツ過二起、山十江一寸寄、暫咄、連而土田留守見廻一寸寄、直ニ磯野江行、的式立拾六本中、跡二度不取五、六度射、昼後九ツ半過二帰、尋而中惣誘ニ来、又連而磯野江行、的式立三拾老本中、跡

ニ又度不取小的等、拾度余射、晚二帰、直ニ中惣与青木江寄暫咄、晚二帰、夜小児守等、寢、

四日 五ツ半頃二起、半日大小手入等、昼々檢使留一冊書写、起止録調等、八ツ過々梅環来咄、詩経素読式拾枚余聴、尋而中惣来咄、梅環去、中惣連而土田江行、同人檢使方是日帰、咄等、跡々磯野茂来、同咄、晚二帰、夜宅ニ而髪結、寢、

五日 五ツ過二起、吉田之学校日¹³⁴ニ付出座、的式立射、式拾本中、九ツ時二帰、直ニ辻江行、寄日、跡

ニ咄、土谷与碁老番打、晚二帰、夜寢、

六日 六ツ過二起、役所江出、口書老通直し等、夜四ツ時頃二済帰、寢、

七日 五ツ時二起、圮橋方ニ而咄等、四ツ時前々役所江出、口書清書読合等、昼後八ツ半頃二済、直ニ中惣、土田、土谷、脇坂、余、磯野江行、的式立拾九本与式拾式本中、跡ニ小的老手、跡ニ酒宴、咄、夜四ツ時頃二帰、寢、

八日 四ツ半頃二起、御触留いたし入払帳調理、昼後起止録調等、森嶋守人来、咄、碁老番打、去、小児守等、古沢江遣紙面半分調等、夜モ寢、

九日 五ツ過二起、髪結江行、髪結帰、梅環来、詩経素読、間ニ井佐来咄、四ツ半頃二梅環去、井佐孟子訳読、跡ニ碁式番打、間ニ丹羽椎溪来、尋而昼井佐去、椎溪連而かもの大橋新出来之由ニ付見物ニ行、帰、直ニ晚々脇坂江行、中惣、磯野、土谷行あり、同咄、夜九ツ時過二帰、寢、

十日 五ツ時二起、早川江行、跡々中惣来、本宅地面ニ的場拵ニ取懸り、昼々土谷も来、同人ニ家来ニ手伝為致、終日地ならし等、晚ニ仕廻、直ニ中惣江行、暫咄、夜六半頃二帰、寢、

十一日 五ツ時二起、又的場拵ニ行、是日土屏為築上等、朝五ツ半過二檢使被仰渡、昼前帰、髪結江行、髪結帰、尋而檢使出役、途ニ一寸辻江寄、暫咄、脇坂誘又暫咄等、八ツ半頃々連而出役、松任檢使宿江七ツ半頃二着、尋而又十丁斗死骸見分ニ行、晚ニ檢使所江帰、夫々手前糺方口書調等、夜九ツ時頃二御用全仕廻、袋を封し候上、旅宿ニ直し寢、

十二日 六ツ半頃二起、五ツ半頃二松任出立、野々市ニ而暫休、四ツ半頃二帰宅、小児守等、昼森守来、暫咄、連而本宅的場江行、半日土振等、昨今共終日中惣、土谷行あり、跡々森守并岡本勇左衛門来、同手伝、七ツ時過二あつち¹³⁵恰好等仕上り、七ツ半過々右人々共都合五人ニ而的十度射、余、根振九本中、間ニ磯野来、早川ニ而皆同咄等、坂井仙之丞も来、同咄、酒吞等、夜五ツ時頃二帰、モ寢、

十三日 六ツ半二起、脇坂来、暫咄、連而役所江出、是日土田見合、取次式人口書式通、外ニ老通直し等、夜四ツ時過済帰、寢、

十四日 五ツ過二起、起止録調、四ツ時前々大嶋江一寸寄、暫咄、四ツ時頃二役所江出、口書清書為読合等、昼後八ツ時過二済帰、直ニ土田江見廻ニ行、暫咄、中惣、土谷連而直ニ七ツ過々本宅的場江行、早

¹³⁴ 吉田之学校日ニ加賀藩では日置流の分流である吉田流の弓術が主流であった。武学校「経武館」において吉田流弓術の稽古があつたものと思われる。

¹³⁵ あつちニ安土。的をかける盛り土。

川二而暫咄等、的耆立拾九本中、晚二帰、直二丹羽椎溪江寄、夜五ツ半頃二帰、寝、十五日 四ツ時過二起、宅二而髪結、小兒守等、昼後モ障子張紙鍵等、障子式間半余張、七ツ半頃方山東甚兵衛来、尋而同余所次郎、丹羽椎溪追々来、豆腐会咄、夜九ツ過二皆去、寝、

十六日 五ツ過二起、大小手入等、起止録調、小兒守等、昼前々中惣江寄、暫咄、的張手伝等、直二早川江行咄、看碁等、本宅の場二而中惣与兩人二而的耆立廿本中、跡二小的等七、八度斗、八ツ半頃方直二土谷江行く、岡検使口書直し等、咄、夜五ツ時頃二帰、寝、

十七日 五ツ過二起、学校江出座、不見諸侯何義之章孝友堂先生聴聞、直二役所江出、寄日、昼後八ツ時頃二済帰、午睡、七ツ半頃二覚、髪結江行、髪結直二岸井太助江一寸見舞二寄、直二茶碗買二森下町方尾張町廻り、晚二帰、夜圀橋方二而暫咄、寝、是日大嶋二男子出生二付稼亭来、暫咄二付起、去、又寝、十八日 六ツ半二起、役所江出、取次耆人、口書耆通、昼後八ツ時過二済、青木之外何茂宅江来、弁当持寄、咄、碁打等、夜六ツ時前二皆去、寝、

十九日 四ツ時前二起、終日障子張紙繼立、間二松寺村四郎右衛門来、暫咄去、源太来、暫咄去、小兒守等、七ツ時頃方小兒連而大嶋江男子出生之祝義二行、咄、跡方椎溪も来、同咄、夜四ツ時頃二帰、寝、廿日 五ツ半頃二起、起止録調、髪結江行、髪結帰、検使留いたし、昼後九ツ半頃方土田江行、寄日、七ツ頃二済、跡二何茂碁打咄等、夜四ツ時頃二帰、是夜出水、母衣町江水見物二行、是夜妻大嶋江夜伽¹³⁶二行、帰寝、

廿一日 五ツ半頃二起、中藤江行咄いたし、昼前二帰、尋而中惣誘、本宅の場二而的耆立、拾七本中、間二雨降、中惣与早川二而碁耆番打、七ツ半過二帰、直二永井江寄暫咄、直二晚方大嶋江行咄、半夜夜伽等、九ツ時過二帰、寝、

廿二日 五ツ半頃二起、中惣誘、本宅の場江行、耆立、昼早川二而焼飯御結、生山佐大夫与碁式番打、又的耆立、跡二又生山佐大夫与碁式番打、晚二帰、直二丹羽江寄、暫咄、晚二帰、夜、寝、

廿三日 五ツ半過二起、髪結江行、髪結帰、昼早メ方坂井学校御見届日二付出座、野村与三兵衛之馬二乗、乗馬中大雨、八ツ半頃二帰、着類脱替、尋而大嶋江七夜祝二行、是夜妻も夜伽、直二夜伽¹³⁷間二暫眠、廿四日 朝六ツ半前二帰、漏浴江行、帰、眠、昼覚、昼後方小兒連而田井天満宮江祭礼二付参詣、直二本宅の場江行、的拾度、小兒連而帰、尋而又的場江行、的耆立、夕早川二而暫咄、帳面調等、直二中惣江行咄、夜四ツ半頃二帰、寝、

廿五日 五ツ半頃二起、本宅の場江行、式拾度射、昼中惣江行、碁七、八番打、又的場二而耆立拾五本中、跡二小的等、夕早川江寄咄、祭¹³⁸逢馳走、晚二帰、夜宅二而髪結、寝、

廿六日 六ツ過二起、役所江出、取次式人、口書式通、夜九ツ時過二済帰、寝、

廿七日 五ツ半頃二土田誘二来、連而本宅の場江行、的耆立拾六本中、昼直二永井江行、咄、跡方中惣来、同咄、同人与碁式番打、間二丹羽、山東兩人同所江来、同咄、皆連而又本宅の場江行、的余五度射、丹羽、山余連而晚二帰、直二又皆山東江行、咄、豆腐会、夜四ツ時頃二帰、寝、

廿八日 五ツ半前二起、役所江出、途二一寸大嶋江寄、昼後八ツ半頃二役所仕廻、直二中惣与青木江行咄、中惣与碁七番打、晚二帰、直二山十江寄、粟生村検使書付読等、跡方土田、磯野追々来、同咄、夜四ツ時前二帰、寝、

廿九日 五ツ半頃二起、髪結江行、髪結帰、役所江出、口書清書為読合等、昼後八ツ時過二済帰、直二中惣、脇坂与本宅の場江行、的見物いたし跡二的耆立拾五本中、晚二直二脇坂与中惣江寄、咄、夜四ツ半前二帰モ寝、

晦日 五ツ半頃二起、起止録調、小兒連而本光寺江参詣、墓参、昼帰、尋而中惣誘二来、途二一寸孝友堂江寄暫咄、連而磯野江行、岡検使一昨日栗生村検使之写口書耆通調等、跡二的耆立、拾九本中、跡方土田も来、同的射、夜咄等、四ツ半前二帰、寝、

九月

朔日 五ツ過二起、丹羽椎溪江行、暫咄、直二大嶋江寄暫咄、昼前二帰、入払帳しらべ等、的四ツ張、障子耆間張等、夜暫小兒守等、宅二而髪結、寝、
二日 六ツ半前二起、役所江出、是日方青木見合、是日為救出牢もの有之、併同役ハ御寺江不罷越、昼後八ツ半前二済帰、小兒守等、障子つづくり等、夜圀橋方二而暫咄、モ寝、

136 夜伽ハ警護や看護のため夜寝ずに付き添うこと。大嶋家では八月十七日に男子が生まれているので、新生児の世話の手伝いに行つたのではないだろうか。

137 直二夜伽ハ七夜の祝に行き、豫卿もそのまま大嶋家で過ごしたものと思われる。
138 祭ハ田井天満宮（椿原神社）の祭礼。

三日 五ツ過二起、障子式、三間張等、廻り椽掃除等、間二一寸早数来去、昼後起止録調、小兒守等、脇刺手入、八ツ半頃方中惣、磯野来、咄、磯野去、中惣与基式番打、晩方永井平右衛門来、同咄、祭酒振舞等、夜五ツ半頃二皆去、圮橋方二而咄等、四ツ過二寝、

四日 五ツ半頃二起、半日大小手入、昼方山十江寄、魚津之志ようり語¹³⁹来あり、阿漕并石川五右衛門釜煎之段、都合式段聞、間二土谷も来、同咄、夕七ツ過二帰、圮橋方二而暫咄、青木方検使出役之義頼越、右返書いたし間二奉行衆方明日しらべ問懸二可罷出旨申来、廻達いたし等、夜脇坂誘二来、宅二而髪結、五ツ時頃方検使所田井口広濟寺¹⁴⁰江指向、名書等二色々隙取、半夜程遅刻二成、同寺二而死骸見分口上書下調等、

五日 晩六ツ時頃二帰、寝、同朝五ツ半過二起、髪結来、圮橋方二而暫咄、四ツ過方役所江出、問懸読等、七ツ前二仕廻、直二何茂磯野之外青木江行咄、碁打等、夜五ツ半頃二帰、モ寝、

六日 六ツ過二起、役所江出、取次老入、口書老通、外二口書老通直し等、

七日 朝五ツ半過二役所済帰、寝、夕七ツ時前二起、本宅の場江行、五度射、七本中、中惣、土谷来、同老立射、余式十一本中、晩二帰、直二丹羽椎溪江寄咄、夜九ツ時頃二帰、寝、

八日 五ツ過二起、五ツ半頃方役所江出、口書清書為読合等、昼後八ツ時頃二仕廻、直二山十、磯野之外何茂辻安江行、咄、中惣与碁四番打、跡二看碁等、夜五ツ過二帰、寝、

重陽 四ツ時頃二起、起止録調等、髪結来、昼方中惣誘、本宅の場二而的老立式拾三本中、跡老立見物、小的射等、晩方又中惣江行、咄、夜五ツ過二帰、寝、

十日 五ツ過二起、五ツ半頃方役所江出、口書清書為読合等、昼後八ツ半二済帰、直二同役何茂本宅の場江来、的老立、余拾五度射、拾本中、晩方直二何茂土谷江行、小鳥振舞二逢、看碁等、夜四ツ時前二帰モ寝、

十一日 五ツ半頃二起、古沢昨日江戸方御暇、朝帰着之由二付、見舞旁一寸行、土田江寄、留守、昼前二帰、検使留調筆等、八ツ時頃方井佐来、当十四日小松江発足之由、酒振舞等、咄、七ツ半頃二去、尋而脇坂、辻、磯野、中惣、土田、土谷追々二来、小鳥料理等、碁打咄等、跡方又井佐も来、同咄等、夜四ツ時過二皆去、寝、

十二日 五ツ半頃二起、検使留調筆等、昼方磯野江行、土田之外同役何茂的射、余式立十三本与十五本中、跡二小鳥料理等、咄、夜四ツ半頃二帰、寝、

十三日 六ツ過二起、役所江出、取次式人、口書式通調、是日辻、磯野、検使出役、青木役引、夜九ツ時頃二済帰、寝、

十四日 五ツ過二起、圮橋方二而暫咄、五ツ半過方役所江出、口書清書為読合等、昼後八ツ半過二済、直二土田、山十、中惣、土谷与脇坂江行、小鳥料理等振舞二逢、夜五ツ時頃二帰、口不取、寝、

十五日 五ツ過二起、起止録調、風呂立あり温浴、髪結来、松寺村四郎右衛門来咄等、昼前二去、尋而丹羽椎溪誘二来、連而孝友堂先生誘、皆連而粟ヶ崎方五郎嶋江廻り、同所神主方菊見物等、夫方大野方かもり大橋江廻ル、同所明舟二而又一酌等、是二羽衣老番謡等、夜五ツ時頃二帰宅、寝、

十六日 五ツ過二起、小兒守等、的張二付反古しらべ等、昼的式ツ張、なまず料理等、検使留本とじ直し等、夜圮橋方二而咄、稼亭来同咄、五ツ半前二去、モ寝、

十七日 五ツ時二起、学校江出、講書聴聞久田九蔵、直二辻安江一寸寄、途二逢同人、是日検使方帰、直二役所江出、寄日、昼後帰、直二又辻江何茂行、碁亭主并土谷与老番宛打、夕七ツ時過二帰、髪結来、小兒守等、夜、寝、

十八日 六ツ過二起、役所江出、取次式人、口書老通、内錢屋喜太郎娘ちか義¹⁴¹、父之代牢願二懸込、孝心奇特二付、御用番江御達之所、御聞届無之二付、右之趣清書老通調等、晩二役所済帰、夜小兒守、寝、十九日 五ツ過二起、起止録調、小兒守等、四ツ時方役所江出、口書清書為読合等、昼後八ツ半頃二済、帰、中惣、山十、土谷与観音下じきよう寺¹⁴²江生花并盆石等見物二行、直二中惣与土田誘、吉田稽古所江行、的老立十九本中、晩二帰、中惣来咄、夜四ツ時頃二去、寝、

廿日 五ツ半二起、髪結来、小兒守等、寄日二付人来用意等、昼九ツ時方同役辻之外何茂追々来、七ツ半頃二御用談済何茂去、尋而丹羽椎溪来、暫咄、晩二去、夜寝、是夜八ツ時前二大聖寺様五老之継祖母御卒去之義二付、昨日方明日迄遠慮之御触状到来、返書いたし等、寝、

139 志ようり語 浄瑠璃がたり。浄瑠璃太夫。三味線の伴奏で浄瑠璃を語る人。

140 田井口広濟寺 御小人町(現在の金沢市扇町付近)の真宗寺院。

141 錢屋喜太郎娘ちか義 錢屋喜太郎は宮腰の豪商錢屋五兵衛の長男。喜太郎の娘(錢屋五兵衛の孫)ちかは、

嘉永五年九月に起きた錢屋五兵衛疑獄事件において五兵衛とともに処罰された喜太郎の代わりに入牢することを願ひ出していた。この件について豫卿が携わっていたらしい。ここでは、孝行感心ということで御用番へ上申したが、許可されなかったことが記されている。

142 観音下じきよう寺 観音院の下にある浄土宗寺院寿経寺。

廿一日 五ツ前二起、本宅の場江中惣誘行、岡本勇左衛門も来、的式立十九本与廿二本中、昼帰、尋而山東余所次郎病氣ニ付見廻二行、暫咄、直二坂井稽古所江行、暫咄、直二古沢江見廻旁一寸寄、土田江一寸寄、山十江寄、留守、直二青木江行暫咄、跡々土田も来、連而帰、尋而連而早川殿江忌中見廻方式台勤、直二余、井佐留守見廻等二行、直二中村平八郎¹⁴³江忌中見廻二寸行、直二丹羽江寄、留守、七ツ半頃二帰、圮橋方二而咄、晩々丹羽椎溪来、咄、暫ク圮橋も来、同咄、夜八ツ時頃二椎溪去、寝、

廿二日 四ツ過二起、木下平之介来、暫咄去、小児守等、昼後起止録調、折たく柴の記読、又小児守等、晩々寝、

廿三日 五ツ前二起、髪結来、折焼柴之記五拾枚斗読、昼後詩集読等、八ツ時過々辻安江行、咄、碁拾番斗打、夜五ツ時頃二帰、圮橋方江稼亭来あり、同咄、碁式番打、将棋さし等、夜八ツ時二稼亭去、寝、

廿四日 五ツ半頃二起、小児守等、四ツ時過々土田江一寸寄、古沢江行、左兵太二逢、巻藁拾四、五本射、直二磯野江寄、暫咄、昼後帰、尋而八ツ時頃々本宅の場江行、磯野も行あり、中惣与共二的壺立、余十三中、跡々辻安も来、晩々皆中惣江行、小鳥振舞二逢、碁打咄等、夜九ツ時頃二帰モ寝、

廿五日 四ツ時前二起、起止録調、的式ツ張、昼々中惣誘二来、連而吉田稽古所江行、巻藁式、三本討、的拾五度射、直二土田、中惣、連而磯野江行、亭主留守、的式立射、拾五本与拾九本中、跡々亭主帰、

廿六日 六ツ時頃二起、髪結来、六ツ半頃二役所江出、口書直し等、夜九ツ時頃二済帰、唐詩選クリ、寝、

廿七日 五ツ半頃二起、大小手入、間二太郎田屋来、咄去、四ツ半頃々役所江出、口書清書為読合等、是日役所江か、り候時々之取次数しらべ候所、百六拾一有之事、昼後八ツ時頃二済帰、小児守等、尋而土田誘二来、連而中惣江一寸寄、留守、直二平井江行、一統勝負四組斗見物いたし、直二又中惣誘皆連而本宅の場江行、拾五度射、的高の七本中、土谷も跡々来、同射、晩々余、中惣江行、小鳥振舞二逢等、咄、夜四ツ時前二帰、寝、

廿八日 五ツ過二起、場之掃除為致等、古沢江行、巻藁拾四、五本射、直二吉田稽古所江行、的壺立与拾式度射、壺立ハ拾式本中、昼後八ツ時頃二帰、尋而本光寺江参詣、墓参、直二浅野町鳥屋江行鳥買、帰、料理等、晩々木下平之介来咄、小鳥振舞等、夜八ツ時二去、寝、

廿九日 五ツ過二起、髪結来、古沢江行、巻藁三拾本余射、昼帰、尋而本宅の場江家来連行、掃除為致手伝等、間二坂宇、土谷江一寸寄、皆留守、的場江森嶋守人、小川常之助、南清五郎来、的式立射、跡々中惣も来、余六本与九本中、晩二帰、直二丹羽椎溪江行、咄、夜四ツ時過二帰、寝、

晦日 五ツ過二起、巻田屋長次郎来、咄去、弁当為持用意等、本宅の場江終日二行、壺立見物、跡二七度斗射、雨降二付中惣方二而碁打、咄等、土田、山本、脇坂、土谷跡々瀧沢も来、同咄、看碁等、夜四ツ時過二帰、寝、

十月

朔日 五ツ半過二起、風呂立あり漏浴、昼後小児守等、阿漕物語¹⁴⁴、雑書読等、間二吉蔵来、暫咄去、起止録調等、髪結来、又阿漕物語夜迄読、寝、

二日 六ツ過二起、役所江出、口書壺通直し等、夜五ツ頃二済帰、阿漕物語読、蕎麦給、寝、

三日 五ツ前二起、阿漕物語読、是日家内諸橋江能見二行¹⁴⁵、四ツ時前々役所江出、口書清書為読合等、昼後八ツ時前二済帰、直二同役何茂土田江行碁打咄等、さけ之魚振舞二逢等、夜九ツ前二帰、阿漕物語読、モ寝、

四日 五ツ半過二起、阿漕物語読、前篇全六冊読仕廻、間二百姓来米はかり、御触留いたし等、昼後小児守等、土田来暫咄去、七ツ時前々辻安江行、暫咄、直二青木江見廻二行、暫咄、晩二土田江一寸寄、帰、夜独酒呑、小児守等、寝、

五日 五ツ前二起、髪結来、尋而脇坂来、暫咄、連而辻安江行、同人今朝検使出役、土谷行あり、碁壺番打、跡々土田、山十来、皆連而本多求馬佐殿江菊見物二行、暫咄、直二岩原五右衛門方菊見物二行、直二土谷江行、寄日、跡二碁打咄等、夜六ツ半頃二帰、家来給銀渡し等、モ寝、

六日 六ツ過二起、役所江出、取次壺人、口書壺通、夜六ツ半前二済帰、独酒呑等、寝、

七日 五ツ時頃二起、古沢江行、巻藁式拾五本斗、是日先生出、小口百五拾本射、昼後九ツ半過二帰、尋而本宅の場江行、的都合式拾度斗射、拾八本斗中、七ツ半頃々中惣、土谷、坂宇連而鶴間溪江紅葉見二行、瓢酒呑咄、晩二帰、夜、蕎麦給、□□モ寝、

¹⁴³ 中村平八郎＝登場人物一覽参照。

¹⁴⁴ 阿漕物語Ⅱ『中心義胆阿漕浦物語』のことを指すと思われる。鳥居清経画の黒本。三冊。

¹⁴⁵ 諸橋江能見二行：…能楽師諸橋家で行われた能稽古あるいは、諸橋氏が八家や人持組など上級武士の家で行った出稽古を見物しにいったものと思われる。

八日 五ツ半過二起、髪結来、起止録調等、折焼柴之記読、昼後八ツ時頃方辻安来、咄、碁三番打、去、尋而豊嶋虎三郎来、咄、碁三番打、晚二去、尋而丹羽椎溪江行、咄、夜九ツ半頃二帰、寝、
九日 五ツ半前二起、古沢江行、巻藁式拾五本斗、小口百本余射、昼後九ツ半頃二帰、尋而昼後八ツ時方山東江見廻二行、咄、謡式番クリ等、跡方丹羽椎溪も来、同咄、夜四ツ時過二帰、寝、
十日 五ツ過二起、磯野江行、暫咄、弓懸取、直二古沢江行、巻藁三拾本斗、小口百本余射、昼後九ツ頃二帰、小児守等、八ツ半頃方永井江行、暫咄、直二中惣江寄、留守、土谷江寄、留守、豊嶋虎三郎江一寸寄、直二早川江行咄、碁九番打、夜四ツ過二帰、モ寝、
十一日 四ツ過二起、起止録調、折焼柴之記読、小児守等、昼九ツ過方早川江行、碁八番打、晚方直二中惣江行、咄、土谷も来、同咄、夜五ツ前二帰、小鳥料理・餅煮等、将棋さし等、夜九ツ時頃二寝、
十二日 四ツ時過二起、髪結来、山東江口□□調等、五ツ前方土田江一寸寄、直二磯野江行、岡検使同役山十之外何茂行、余検使留読并書付調等、跡二咄、夜小口式、三十本射、九ツ時前二帰、寝、
十三日 六ツ半過二起、役所江出、出揃日、昼後八ツ時前二帰、土田来、碁式番打去、尋而丹羽椎溪江行、山余行あり、同咄、夜四ツ時過二帰、餅煮給等、寝、
十四日 四ツ半頃二起、古沢江行、左平太留守二付土田江行、咄、碁拾五番打、七ツ時過二帰、圀橋方江行、馬淵方何も来、同所常悦、稼亨も来、夜四ツ時前二皆去、モ寝、
十五日 四ツ時頃二起、小児守等、風呂立あり漏浴、昼後髪結来、起止録調、大小手入、八ツ時過方丹羽椎溪誘二来、連而山東江行、咄、豆腐会、夜五ツ過二帰、寝、
十六日 五ツ過二起、古沢江行、巻藁式拾五本斗射、昼前二帰、昼後中惣江行、是日□□、咄、碁八番打、夜六ツ過二帰、直二丹羽椎溪江行、大嶋稼亨行あり、同咄、夜九ツ過二帰、寝、
十七日 五ツ前二起、髪結来、学校江出、講書聴聞中村平八郎、直二役所江出、寄日、昼後九ツ半頃二帰、直二一寸丹羽江寄、直二早川江行、中惣、土谷も行、教之助与碁七番打、晚二帰、夜酒吞、寝、
十八日 曉七ツ時前二起、折焼柴読、小児守等、六ツ半頃方役所江出、取次老人、口書老通、夜九ツ半頃二済帰、寝、
十九日 昼九ツ時前二起、小児守等、豊嶋虎三郎来、咄去、先是山余来咄、七ツ時前二去、又小児守、折焼柴読等、夜酒吞、又折たく柴読等モ寝、
廿日 五ツ前二起、髪結来、起止録調、四ツ時前方役所江出、口書清書為読合等、暮七ツ半過二済、直二山十、中惣、土谷与野々市屋江行一杯吞、夜五ツ時頃方直二皆宅江来、蕎麦取寄給等、碁各数十番打、曉七ツ時頃二皆去、寝、
廿一日 五ツ半過二起、古沢江行、巻藁独三拾本余射、昼頃方直二土田江行碁打、跡方中惣も来、同咄、碁打等、晚二帰、夜寝、
廿二日 五ツ半二起、古沢江行、巻藁式拾五本斗、小口式百本、昼後九ツ半頃二帰、圀橋方大根引二付半日小児守等、晚方丹羽椎溪江行、咄、同人明日方能州廻り、夜四ツ時頃二帰、寝、
廿三日 四ツ時頃二起、中惣一寸誘二来、先二吉田江行、余跡方古沢江行巻藁式拾五本斗、直二吉田江行、同所終日巻藁百本斗射、七ツ半頃二帰、直二土田、中惣与万屋江小口弓、下地見二行、直二青木江寄、暫咄、晚二帰、夜酒吞、大工吉右衛門二酒為吞等、寝、
廿四日 五ツ過二起、髪結来、終日大根引二付小児守、夜酒吞、寝、
廿五日 五ツ半二起、古沢江行、小口百本余射、巻藁式拾五本斗射、昼後九ツ半頃二帰、尋而田井天満宮江参詣、直二中惣江一寸寄留守、早川江行碁四番打、晚二一寸永井江寄、帰、夜酒吞、モ寝、
廿六日 六ツ過二起、酒式、三杯吞、役所江出、取次老人、口書老通、夜五ツ時過二済帰、酒吞、寝、
廿七日 五ツ半前二起、髪結来、四ツ前方役所江出、口書清書為読合等、八ツ半頃二仕廻帰、土田、山十、磯野之外皆宅江来、咄、碁各数番打、夜九ツ時頃二皆去、寝、
廿八日 五ツ半過二起、役所江出、口書清書為読合等、夕七ツ時頃二済帰、直二磯野、脇坂之外何茂青木江行咄、碁打等、夜四ツ時過二帰、モ寝、
廿九日 五ツ半頃二起、梅環来、暫咄去、四ツ半頃方古沢江行、小口百本余射、昼後九ツ半頃二直二山十江寄、碁四番打、七ツ半頃二帰、尋而本光寺江墓参、直二晚方西坂好文園見廻二行、咄、夜四ツ時前二帰、寝、

十一月

朔日 昼九ツ時前二起、起止録調、佐野屋江遣紙面調等、髪結来、小児守等、夜圀橋方二而咄、謡式三番、□等、五ツ半頃二寝、
二日 六ツ時頃二起、役所江出、口書老通直し等并問懸調筆手伝等、
三日 朝五ツ時頃二役所済帰、一杯吞、寝、昼後八ツ半頃二起、圀橋方法事二付行、夜五ツ過二客皆去、寝、

四日 五ツ半前二起、髪結来、四ツ時過方役所江出、口書清書為読合等、夕七ツ半前二済帰、直二定役一統青木江行、奉行衆方内意有之示談等、跡二看基、咄等、夜四ツ時頃二帰寝、

五日 四ツ時過二起、小児守等、昼圮橋方髪置祝¹⁴⁶、隣家寺西江行、暫咄等、九ツ過方丹羽椎溪留守江一寸見廻、早川江寄暫咄、直二中惣江一寸寄、同所方土田連而坂宇江一寸見廻二行、又中惣江行、寄日勤方帳会得等、七ツ時頃二御用談済、跡二基打、咄等、夜五ツ時頃二帰、圮橋方江稼亭兄弟、馬淵兄弟来あり、同咄、夜九ツ半頃二皆去、是日甲子、寝、

六日 六ツ過二起、役所江出、取次老入、口書忝通、暮六ツ時前二済帰、夜眠、蕎麦給、寝、

七日 五ツ半頃二起、髪結来、四ツ時頃方土谷誘二来、連而磯野江寄、諸橋江能見物二行、朝長権之進¹⁴⁷、ぎおふ、満仲権之進、海人彦作、暮六ツ時前済帰、土宅名江来咄、蕎麦振舞等、夜五ツ前方中惣来、檢使被仰渡相談等咄、四ツ過二皆去、尋而又来、暫咄、去、寝、

八日 昼九ツ時前二起、小児守等、起止録調、御触送状調等、夕七ツ時頃方中惣江寄、留守、坂宇江一寸寄留守、土谷江行咄、暮八番打、夜八ツ時頃二帰、寝、

九日 四ツ時頃二起、古沢江行、巻藁式拾本計、小口百本射、昼後九ツ半頃二磯野江寄、暫咄、帰、八ツ時過方中惣江行、途二同人江逢、連而帰、檢使袋披見等咄、夜五ツ時過二去、寝、

十日 五ツ時過二起、古沢江行、巻藁式拾五本、小口百本射、昼帰小児守等、八ツ半頃方辻安江見廻二行、暫咄、直二七ツ過方大嶋稼亭江行咄、晚方直二丹羽椎溪江行咄、夜九ツ半頃二帰、寝、

十一日 昼九ツ時前二起、小児守等、髪結来、松寺村四郎右衛門来、暫咄、去、起止録調、又小児守等、夜折たく柴の記読等、四ツ時過二寝、

十二日 五ツ過二起、古沢江行巻藁三拾五本余射、跡方土田来、小口百本射、昼後九ツ半頃二帰、尋而早川江行暮三番打、暫基等、晚二帰、酒吞、夜折たく柴の記読仕廻先達而方上中下三冊之分是日済、九ツ時前二寝、

十三日 六ツ時起、役所江出是日方青木出勤、取次四人、口書四通、外二口書式通直し等、夜九ツ時過二済、帰、寝、

十四日 四ツ時前二起、髪結来、一寸大嶋江寄、役所江出、口書清書為読合等、七ツ時頃二仕廻、帰、山十宅江来、暫咄、暮七番打、晚二去、是日冬至、夜小児守等、寝、

十五日 五ツ半過起、風呂立あり漏浴、九ツ時前方役所江出、口書清書為読合等、七ツ時過二済、直二辻江青木之外何茂行、なます振舞二逢等、暮・咄等、夜九ツ時頃二帰□□モ寝、

十六日 四ツ時過二起、人來用意等、是日せかれ髪置祝、昼小豆飯祝等、川柳点本読等、晚方丹羽椎溪来并圮橋も来、出入之人々も来、酒式・三盃初ル節、東末寺方出火¹⁴⁸、風下二付屋根江水揚等、尋而役所江出、坂井宇右衛門老入出あり、風下之旨申入罷帰、又火之粉禦等少々風横二成二付、食并酒吞、火事場江行、山十江見廻二行、脇坂・土谷二逢、連而火事場見廻り、余又役所江見廻り、奉行衆引取後也、直二大嶋江家内立退居ルニ付連而帰、土谷、脇坂宅江来、残酒振舞等、皆連而石屋小路藤江方江土田之行衛尋二行、吉田左近右衛門江見廻二寄、又焼跡柳原江行、同所父子二逢、古沢江見廻二行、同所不焼、品川義三郎江見廻二行、石黒嘉左衛門方江土田尋二行、又不逢、斉田甚八郎江見廻二一寸寄、中村四郎兵衛江見廻二寄、又古沢江見廻二行、道具方付手伝等、直二池田善左衛門方江行、土田二逢、帰、又酒吞咄等、晚七ツ時頃二寝、

十七日 五ツ半時二起、髪結来、役所江出、寄日、直二昼後八ツ時頃山十江見廻等二寄、暫咄、土田焼跡江見廻二行、吉村鉄平江見廻二行、七ツ半頃二帰、尋而丹羽方呼二来、行、山余行あり、豆腐会、夜九ツ時頃二帰、寝、

十八日 六ツ半二起、役所江出、是日辻・土谷檢使出役之所□戻ノ直様帰ル、土田焼失二付一寸出帰、青木是日方口役引、取次式人、口書式通、外口書式通直し等、暮六ツ時前二済帰、夜酒吞、会之檢使袋読等、寝、

十九日 昼九ツ時頃二起、小児守等、八ツ時頃方十間町足駄屋江寄、足駄求、直二古沢江酒為持行、左平太二一寸逢、直二土田焼跡江寄、留守、直二末寺焼跡見物、津幡屋嘉兵衛江一寸寄、湯原江行暫咄、生山佐大夫江此間近火之見廻二行、留守帰、小児守等、晚方稼亭来咄、夜四ツ半頃二去、炬燵二あたり九ツ半頃二寝、

廿日 四ツ時頃二起、髪結来、流石前障子張等、昼後青木江一寸見廻二寄、直二磯野江行、前日檢使方旧例読、七ツ時仕廻、跡二基打、咄、謡クリ等、夜九ツ半頃二帰、寝、

廿一日 昼九ツ時頃二起、終日小児守并源氏本読等、夕大小手入等、夜寝、

¹⁴⁶ 髪置祝 Ⅱ 幼児がはじめて頭髮をのばす儀式。男子数えて三歳の時に行う。

¹⁴⁷ 権之進 Ⅱ 諸橋権進。能楽師。

¹⁴⁸ 東末寺方出火 Ⅱ 夜六ツ時頃（午後六時頃）金沢東本願寺別院より出火、彦三三、四番町まで約百軒の家々が延焼した。『加賀藩史料』幕末篇上巻七四一頁）

廿二日 四ツ前二起、起止録調等、間ニ山十一寸来、去、昼後大小手入、八ツ半過方土田来咄等、晚二去、尋而丹羽椎溪江行、咄、夜四ツ半頃二帰モ寝、
廿三日 五ツ半頃二起、土田頼之趣ニ而同苗四郎兵衛江行、暫咄、直ニ土田焼跡江行、不在合、同所ニ而柳原郁五郎与咄合等、跡方中惣も来、同咄、昼後帰、髪結来、少々不快ニ而浪花梅¹⁴⁹読等、夜寝、
廿四日 昼前二起、又難波為梅読等、昼後八ツ半過方土谷来咄、碁五番打咄、夜九ツ時頃二去、寝、
廿五日 五ツ半過二起、髪結来、不快ニ而終日又難波うめ読、是日全六冊読仕廻、夜寝、
廿六日 六ツ過二起、役所江出、取次老入、口書老通調、外ニ引取書直し等、夜五ツ頃二済帰、蕎麦給寝、
廿七日 五ツ半二起、森快安¹⁵⁰江行診察いたし貰、直ニ又高木学純¹⁵¹江行、右同様薬調合貰等、直ニ四ツ半頃方役所江出、口書清書為読合等、夕七ツ時前二済帰、服薬等、夜御触留しらべ等、寝、
廿八日 不快、四ツ時頃二起、皆済状調遣并青木之紙面返書等、終日蒙求読十六葉、夜寝、
廿九日 不快、昼頃二起、是日朝四ツ風呂ニ入、土谷一寸来、去、尋而磯野一寸来、去、尋而木下平之介来、咄等、去、起止録調、蒙求読、夜寝、
晦日 不快、昼前二起蒙求読、八ツ過方中惣見廻ニ来、咄、碁五番打、夜五ツ頃二去、寝、

十二月

朔日 不快、五ツ半頃二起、髪結来、終す、弘ニ付小兒守等、風呂立あり溜浴、蒙求読等、夜寝、
二日 六ツ半二起、是日方精進、役所江出、取次式人、口書式通調、外ニ口書老通直し等、晚二済帰、夜酒吞、寝、
三日 五ツ半頃二起、高木学純江行診察いたし貰、直ニ役所江出、口書清書為読合等、七ツ時前二済、直ニ辻、山十、中惣、土谷、土田江行、同人此日方主計町江転宅、咄、晚二帰、夜大工吉右衛門来、咄去、尋而源太来、咄、九ツ半頃二去、寝、
四日 五ツ半頃二起、百姓来、米はかり等、馬淵順八一寸来去、小兒守等、昼後八ツ半前方岡嶋殿¹⁵²、山崎殿¹⁵³、内蔵助殿¹⁵⁴寒勤二行、間ニ辻治兵衛、大嶋、丹羽江寄、晚二帰、夜寝、
五日 晚八ツ時過二起、餅つき手伝等、昼後九ツ過二済、間ニ暫眠、髪結来等、八ツ過方脇坂江行、寄日、跡ニ看碁、咄等、夜五ツ半頃二帰、山十連而袋町蕎麦店江行、精進かけ汁ニ而給、同所ニ而蘭物鏡写絵見等、九ツ過二帰、寝、
六日 六ツ半過二起、役所江出、取次老入、口書老通調、昼後八ツ時頃二済、直ニ小立野口式十老軒寒見廻二行、内晩ニ中惣江寄、咄、夜六ツ半頃二帰、神君御遺訓¹⁵⁵読等、寝、
七日 四ツ時頃二起、終日御遺訓読、小兒守等、夜又読寝、
八日 五ツ半頃二起、又神君御遺訓読、昼後八ツ半過ニ全読仕廻、尋而本光寺江参詣、直ニ土田江寄、中惣、磯野行あり、検使沙汰之咄合等、晚ニ同所ニ而酒吞精進揚ケ、直ニ坂井稽古仕廻ニ付行、咄等、夜五ツ過二帰、尋而中惣方紙面到来、返書等、四ツ時過ニ検使被仰渡、磯野江送り等、宅ニ而髪結、出役用意等、
九日 晚八ツ時前二磯野誘ニ来、暫咄等、八ツ過方連而内藤儀左衛門下女むめ変死ニ付出役見分并口上書調等、永井、中惣、取持二行あり、朝四ツ時前二済帰、眠り等、小兒守等、晚方中惣誘ニ来、連而小松屋、井口誠士郎頼母子会ニ行、夜五ツ頃二帰、モ口口不モ寝、
十日 少々風邪氣、昼後九ツ過二起、土田一寸来、去、吉蔵来、咄等、頼母子入れいたし等去、入払帳しらべ等、八ツ半過方脇坂来、跡方磯野も来、同咄、晚ニ皆去、尋而圀橋、稼亭連而圀橋方頼母子、野々市屋江行、夜五ツ頃二帰、稼亭并是安屋助三郎来、暫咄、去、四ツ半過二寝、
十一日 昼九ツ時頃二起、御触留いたし等、尋而土谷来、咄、七ツ時頃二去、起止録調、小兒守等、夜又小兒守等、寝、
十二日 五ツ半頃二起、髪結来、終日神君御文写并告志篇読等、七ツ時頃方土田江寄、咄、酒吞、七ツ半過ニ馬場江出座、田中稽古仕廻、晚二帰、尋而丹羽椎溪江行、咄、夜四ツ時過二帰、寝、
十三日 六ツ半二起、役所江出、取次老入、口書老通、夜八ツ半過迄ニ下調上ケ、是日松任千野村正禪寺御吟味土田主付八拾ヶ条有之、

149 浪速梅 題名に「難波梅」を含む本。鳥居清経画の咄本『難波梅』か。いずれにしても娯楽用の本と思われる。

150 森快安 医者。

151 高木学純 医者または薬師。

岡嶋殿 加賀藩士岡嶋一孝。

山崎殿 加賀藩士山崎範正(三〇〇〇石)。

152 内蔵助殿 加賀藩士前田孝保(三〇〇〇〇石)か。

153 神君御遺訓 『東照宮御遺訓』。

十四日 夕七ツ時頃ニ役所済帰、モ寝、
十五日 四ツ半頃ニ起、終日余詩集草稿しらべ読等、夜又読寝、
十六日 五ツ半過ニ起、ひげすり等、四ツ過方役所江出、口書清書為読合等、七ツ前ニ仕廻、直ニ山十、
中惣、青木江行、暫咄等帰、直ニ古沢、同苗四郎兵衛、生山佐太夫、同苗藤次郎江寒見廻ニ行、馬淵奥
様¹⁵⁶是日方堀橋方江産のため来あり、晩ニ帰、夜小児守等、宅ニ而髪結、モ寝、
十七日 五ツ頃ニ起、学校江出、講書聴聞中村平八郎能言距揚墨者聖人之徒也迄、直ニ役所江出、寄日、
此間之口上書清書為読合等、七ツ時前ニ済帰、小児守等、夜起止録調等、五ツ過ニ寝、
十八日 六ツ時過ニ起、役所江出、出揃日、赦有之、晩ニ済、余検使被仰渡、夕七ツ半過ニ帰、出役用意
等、晩ニ一寸脇坂来、去、夜堀橋方ニ而咄、荷挟箱詰合セ等、九ツ半頃ニ寝、
十九日 六ツ過ニ起、中惣誘ニ来、連而大樋ニ而暫休、津幡河合屋ニ而昼、夕今石動ニ而泊り湯浴、同所
ニ而髪結、夜寝、
廿日 六ツ半過ニ今石動出立いたし、高岡ニ而昼、晩ニ氷見検使宿光禪寺江着、湯浴、夜直ニ名書取立、
夜見分いたし、
廿一日、廿二日、廿三日夫々手前糺口上書等、下もの調為読聞、判形見届等、同日夜済、六ツ時過ニ氷見
町旅宿ニ而泊り湯浴、寝、難眠、
廿四日 六半過ニ氷見出立、高岡ニ而昼、夕今石動ニ而泊り、湯浴、髪結、夜暫眠り、見届書并袋上書調
等、
廿五日 六ツ半頃ニ今石動出立、津幡ニ而河合屋ニ而昼、夕七ツ半頃ニ帰宅、中惣宅江寄、暫装束仕直し
等、去、夜辻安来、咄、五ツ過ニ去、寝、
廿六日 六ツ半ニ起、岡嶋殿江紙面指出等、役所江出、夕七ツ半過ニ済帰、夜寝、
廿七日 昼前ニ起、風呂立あり湯浴、土谷来、暫咄去、終日払方しらべ等、間ニ稼亭来、暫咄去、晩ニ磯
野来、暫咄去、夜寝、
廿八日 五ツ半頃ニ起、上納上ヶ下ヶ調等、四ツ半頃ニ岡嶋殿江出、三百目受取、帰、払方等、夜寝、
廿九日 五ツ過ニ起、髪結来、終日払方等、夜鏡餅等かざりものいたし、金田八左衛門来咄去、寝、

¹⁵⁶ 馬淵奥様ニ豫卿の従兄弟中村小太郎の妹しづ。馬淵順八郎に嫁ぐ。